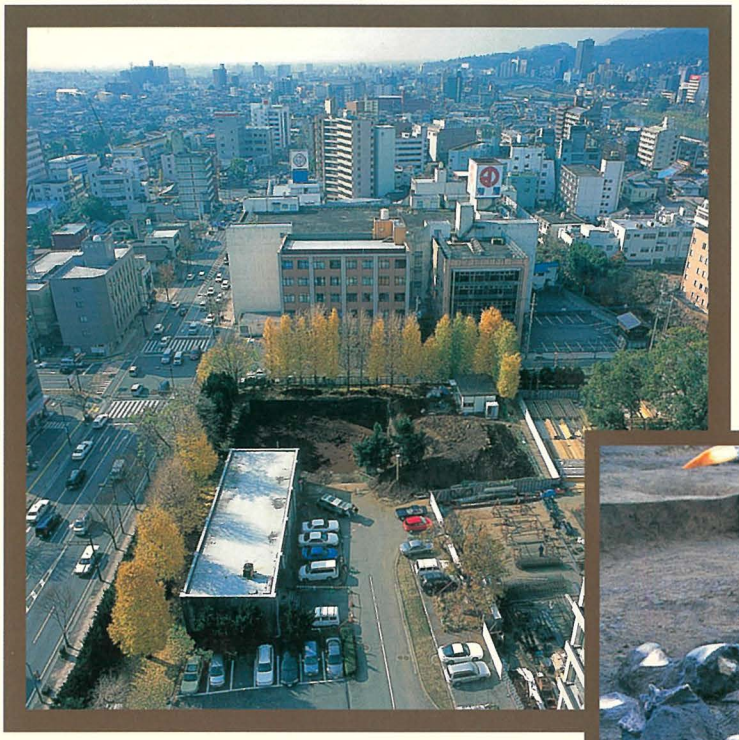
THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES KUMAMOTO UNIVERSITY/2004

11

熊本大学埋蔵文化財調査室年報　2004年度



2005　熊本大学埋蔵文化財調査室

THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES

KUMAMOTO UNIVERSITY/2004

11

熊本大学埋蔵文化財調査室年報　2004年度

2005　熊本大学埋蔵文化財調査室

序　文

熊本大学では、現地での再開発計画を進めています。本学の各学部が位置するキャンパスは「埋蔵文化財包蔵地」に指定されており、再開発計画を実施するにあたっては、文化財の調査・記録保存を行っています。

本年度は、本荘北地区（医学部附属病院）と本荘南地区（医学部）での発掘調査をはじめ、各キャンパスで29件の調査が行われました。

本荘南地区では、縄文時代の遺物や古墳時代の住居址が検出され、また9世紀以降付近が水田化したことが確認されました。本荘北地区の調査では、敷地南側では初の本格的な調査により古墳時代から古代にかけての集落が検出され、遺跡の広がりについて新たな情報を得ました。畑址や祭祀の跡など、これまでにない昔の人々の活動の痕跡も発見されました。また、南地区と同様に付近が水田化したことも判明し、白川沿岸での集落・土地利用の変遷を追う上での貴重な調査結果を得ました。

本年度の調査成果を『熊本大学埋蔵文化財調査室年報　11』としてここに報告し、本書が熊本県の考古学やその他各分野での研究資料として広く活用されますことを期待致します。

2005年3月

埋蔵文化財調査委員会

委員長　北　野　　隆

例　言

1．本書は熊本大学構内において，2004年４月１日から2005年２月末日まで行われた埋蔵文化財の調査および熊本大学埋蔵文化財調査室の活動内容に関する年次報告書である．

2．構内遺跡の調査は，昨年度に引き続き，年次と調査順を表す調査番号で表すこととし，出土遺物や記録類もこの番号で整理・管理している．

3．遺跡略号は，地区ごとにローマ字３文字で以下のように表記した．黒髪町遺跡黒髪南地区（KKS），同北地区（KKN），本庄遺跡医学部構内（HJM），同病院構内（HJH），同医療技術短期大学部構内（KHJ），京町台遺跡教育学部附属小中学校構内（KMS），大江遺跡群薬学部構内（HJP）．

4．遺物への注記は，遺跡略号＋調査番号＋出土遺構（位置）の順で行った．

5．本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査室にて保管している．

6．本書で使用した遺構実測図は，小畑弘己・大坪志子をはじめとする調査参加者が，製図は大坪が行った．

7．なお，遺構実測には手書きによる記録とともに遺跡調査汎用システム（カタタ Ver．3―アーケオテクノ社）を使用した．

8．本書の執筆は，付篇および抄録を前田が，Ⅰ章・Ⅱ－１章を大坪が，Ⅲ章を小畑・大坪・檀が，英文サマリーを大坪が，ハングル文については大坪・金姓旭が行った．

9．本書の編集は大坪が行った．

目次

＜本文目次＞

第Ⅰ章　本年度の調査概要 ―― 1
第Ⅱ章　発掘調査 ―― 5
Ⅱ－1　0411調査地点 ―― 5
1．遺跡の立地と周辺地形 ―― 5
2．調査の概要 ―― 5
3．調査の結果 ―― 5
a　基本層序 ―― 5
b　検出遺構と遺物 ―― 5
4．成果と問題点 ―― 18
第Ⅲ章　立会・試掘調査 ―― 21
Ⅲ－1　黒髪北地区
1．黒髪団地北地区教室新築工事（渡廊下設置）に伴う立会調査（0401）―― 21
2．黒髪団地北地区熊本大学大学院社会文化科学研究科研究室新築工事に伴う試掘調査 ― 21
3．黒髪団地北地区記念碑設置工事に伴う立会調査（0409）―― 24
4．黒髪団地北地区熊本大学大学院社会文化科学研究科研究室新築工事に伴う立会調査（0410）―― 24
5．黒髪団地北地区重要文化財案内板設置工事に伴う立会調査（0417）―― 25
6．黒髪団地北地区夏目漱石記念碑標柱設置工事に伴う立会調査（0418）―― 26
7．黒髪団地北地区情報ネットワーク館関連工事に伴う試掘調査 ―― 27
8．黒髪団地北地区記念館（木造）取壊工事に伴う立会調査（0423）―― 27
9．黒髪団地北地区情報ネットワーク館事前工事（配管工事）に伴う立会調査（0425）―― 27
10．黒髪団地北地区資料館前水道管漏水修理工事に伴う立会調査（0427）―― 28
Ⅲ－2　黒髪南地区 ―― 29
1．黒髪団地南地区理学部駐輪場取設工事に伴う試掘調査 ―― 29
2．黒髪団地南地区工学部台風被害による倒木起しに伴う立会調査（0414）―― 29
3．黒髪団地南地区重要文化財案内板設置に伴う立会調査（0417）―― 29
4．黒髪団地南地区さく井設備工事に伴う立会調査（0421）―― 31
5．黒髪団地南地区樹木移植に伴う立会調査（0428）―― 31
Ⅲ－3　本荘北地区 ―― 32
1．本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事に伴う試掘調査 ―― 32
2．本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事に伴う立会調査（0403）―― 32
3．本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備工事に伴う試掘調査 ―― 33
4．本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備（ポンプ室・RI実験室取壊等）工事に伴う立会調査（0411）―― 34
5．本荘団地北地区附属病院都市ガス漏配管修理工事に伴う立会調査（0412）―― 35
6．本荘団地北地区附属病院台風被害による倒木起しに伴う立会調査（0416－1）―― 36
7．本荘団地北地区附属病院福利厚生施設引込配線工事に伴う立会調査（0419）―― 36
8．本荘団地北地区中央診療棟（軸）工事に伴う立会調査（0422）―― 37
9．本荘団地北地区ボンベ庫取設工事に伴う立会調査（0424）―― 37
10．本荘団地北地区防火水槽取設工事に伴う試掘・発掘調査（0426）―― 37
Ⅲ－4　本荘南地区 ―― 39
1．本荘団地中地区医学部台風被害による倒木起しに伴う立会調査（0416－2）―― 39
Ⅲ－5　京町地区 ―― 40
1．京町地区附属中学校台風被害による倒木起しに伴う立会調査（0413）―― 40
Ⅲ－6　薬学部地区 ―― 41
1．薬学部地区植物園棚支柱ほか設置に伴う立会調査（0404）―― 41
2．薬学部地区宮本記念館新営機械設備及びその

他工事に伴う立会調査（0405）―― 42
3．薬学部地区薬学部宮本記念館（仮称）建設に伴う立会調査（0406）―― 43
4．薬学部地区台風被害による倒木起しに伴う立会調査（0415）―― 44
5．薬学部地区テニスコート整備工事に伴う立会調査（0420）―― 45
6．薬学部地区雨水設備工事に伴う立会調査（0429）―― 45
Ⅲ－7　宇留毛地区 ―― 45
1．宇留毛地区小磧宿舎揚水管漏水配管改修工事に伴う立会調査（0408）―― 45

跋文 ―― 47
Summary ―― 48
付篇1 ―― 49
付篇2 ―― 51
報告書抄録 ―― 53

＜図版目次＞

図1　黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000） ―― 2
図2　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000） ―― 6
図3　0411調査地点遺構配置図1（1/150）―― 7
図4　0411調査地点遺構配置図2（1/150）―― 8
図5　0411調査区西壁・南壁土層断面実測図（1/80） ―― 9
図6　各溝の土層断面実測図（1/20・1/50）・畝土層断面実測図（1/50） ―― 11
図7　120号・166号竪穴住居址実測図（1/50） ―― 13
図8　174号竪穴住居址実測図（1/50）―― 14
図9　175号・200号竪穴住居址実測図（1/50） ―― 16
図10　207号竪穴住居址実測図（1/50）―― 17
図11　177・276遺物実測図（1/40・1/20）―― 18
図12　黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）―― 22
図13　黒髪北地区東半における調査地点配置図（1/2000）―― 23
図14　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000） ―― 30
図15　本荘南地区における調査地点配置図（1/2000） ―― 39
図16　京町地区における調査地点配置図（1/2000） ―― 40
図17　薬学部地区における調査地点配置図（1/2000） ―― 42

＜写真目次＞

写真1　1～3号溝（東より）―― 5
写真2　30号溝・33号溝（南より）―― 10
写真3　111号溝（北より）―― 10
写真4　170号溝（北より）―― 10
写真5　畑址（北より）―― 12
写真6　120号竪穴住居址（北より）―― 12
写真7　165号竪穴住居址（南より）―― 12
写真8　166号竪穴住居址（南より）―― 14
写真9　174号竪穴住居址（北より）―― 14
写真10　175号竪穴住居址（北より）―― 15
写真11　200号竪穴住居址（西より）―― 15
写真12　207号竪穴住居址（北より）―― 15
写真13　祭祀（？）遺物出土状況（南より）―― 15
写真14　0411調査地点出土遺物1（1/3・1/2）―― 19
写真15　0411調査地点出土遺物2（1/5）―― 20
写真16　作業風景（西より）―― 21
写真17　トレンチ土層断面（南より）―― 21
写真18　作業風景（南より）―― 21
写真19　トレンチ1掘削状況（西より）―― 21
写真20　トレンチ2掘削状況（南より）―― 24
写真21　作業風景（北より）―― 24
写真22　記念碑周囲掘削状況（北より）―― 24
写真23　移築先掘削状況（東より）―― 24
写真24　掘削作業風景（北より）―― 25
写真25　掘削状況（北より）―― 25
写真26　基礎掘削作業風景（南西より）―― 25
写真27　掘削状況（北西より）―― 25
写真28　土層状況（東より）―― 25
写真29　渡り廊下屋根基礎配置状況（東より）―― 25
写真30　掘削状況（西より）―― 25
写真31　科学実験室前地点作業風景（南より）―― 26
写真32　掘削状況（東より）―― 26
写真33　資料館前作業風景（南東より）―― 26

写真34　掘削状況（南より）―― 26
写真35　作業風景（北西より）―― 26
写真36　掘削状況（西より）―― 27
写真37　解体現場（北より）―― 27
写真38　基礎コンクリート一部除去後（南より）―― 27
写真39　A地点南東端ハンドホール部分掘削完了状況（北より）―― 28
写真40　B地点掘削状況（南より）―― 28
写真41　C地点掘削・包含層検出状況（西より）―― 28
写真42　掘削完了状況（北より）―― 28
写真43　掘削状況（南より）―― 29
写真44　資料館東側地点作業風景（南より）―― 29
写真45　掘削状況（東南より）―― 29
写真46　トレンチ掘削状況（東より）―― 31
写真47　トレンチ土層（南より）―― 31
写真48　掘削状況（南より）―― 31
写真49　トレンチ掘削状況（南より）―― 31
写真50　調査風景（西より）―― 32
写真51　トレンチ1土層（西より）―― 32
写真52　トレンチ2土層（西より）―― 32
写真53　トレンチ3土層（西より）―― 32
写真54　作業風景（西より）―― 33
写真55　東西配管部掘削状況（西より）―― 33
写真56　南北配管部掘削状況（北より）―― 33
写真57　掘削状況（南東より）―― 33
写真58　作業風景（北西より）―― 34
写真59　トレンチ1掘削状況（北東より）―― 34
写真60　トレンチ2掘削状況（北西より）―― 34
写真61　作業風景（東より）―― 34
写真62　既存ガス管掘削状況（北より）―― 34
写真63　既存ガス管掘削状況（東より）―― 35
写真64　解体作業風景（南より）―― 35
写真65　受水槽解体状況（南より）―― 35
写真66　稀釈槽解体・撤去状況（西より）―― 35
写真67　作業風景（南西より）―― 35
写真68　掘削状況（南より）―― 35
写真69　掘削状況（南より）―― 36
写真70　作業風景（南東より）―― 36
写真71　掘削状況（南より）―― 36
写真72　新設電柱・周辺掘削状況（北西より）―― 36
写真73　作業風景（北より）―― 37
写真74　掘削後の状況（南より）―― 37
写真75　作業風景（南東より）―― 37
写真76　掘削後の状況（南西より）―― 37
写真77　調査区全景（北より）―― 38
写真78　調査区全景（北西より）―― 38
写真79　調査区全景（西より）―― 38
写真80　第2号溝完掘状況（南西より）―― 38
写真81　第2号溝土層（南西より）―― 38
写真82　第2号溝馬下顎骨出土状況（南より）―― 38
写真83　作業風景（南より）―― 40
写真84　掘削状況（南より）―― 40
写真85　調査地点近景（東より）―― 41
写真86　掘削状況（南より）―― 41
写真87　作業風景（南より）―― 41
写真88　トレンチ5掘削状況（南より）―― 41
写真89　看板設置部分掘削状況（南より）―― 41
写真90　作業風景（北より）―― 42
写真91　グリッド1掘削状況（北より）―― 42
写真92　グリッド5掘削状況（西より）―― 43
写真93　基礎撤去作業風景（西より）―― 43
写真94　掘削状況（南より）―― 43
写真95　ハンドホール部分掘削状況（東より）―― 43
写真96　電気工事作業風景（北東より）―― 43
写真97　ハンドホール部分掘削状況（北より）―― 44
写真98　給水管部分掘削状況（西より）―― 44
写真99　樹木移植先作業風景（北より）―― 44
写真100　樹木移植先掘削状況（南より）―― 44
写真101　樹木移植先作業風景（南より）―― 44
写真102　樹木移植先掘削状況（西より）―― 44
写真103　作業風景（南より）―― 45
写真104　支柱部トレンチ土層（南より）―― 45
写真105　樹木抜根部トレンチ土層（北より）―― 45
写真106　作業風景（東より）―― 46
写真107　道路横断部分掘削状況（南より）―― 46
写真108　1号宿舎前掘削状況（南より）―― 46

<表目次>

表1　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧 ―― 1
表2　2004年度調査一覧 ―― 3

第Ⅰ章　本年度の調査概要

本年度は表２のとおり，発掘調査３件，立会調査29件，試掘調査６件を実施した（２月末現在）．

本年度実施した発掘調査は，本荘南地区（医学部）発生医学研究センター建設に伴う発掘調査（0402），本荘北地区（附属病院地区）における基幹・環境整備に伴う発掘調査（0411）である．また現在，2月21日から黒髪北地区において，情報ネットワーク館建設に伴う発掘調査を行っている．病院地区では，基幹・環境整備に伴う周辺設備工事において，遺構が検出されており，本調査に切り替えて対応している．本荘南地区における発生医学研究センター建設事業は，Ｐ・Ｆ・Ｉ制度によるため，調査報告は別稿である．

本荘北地区における基幹・環境整備に伴う0411調査地点は，敷地の西南隅に位置する．北地区は，東西に横断する暗渠によって南北に二分することが出来るが，0411調査地点はこの暗渠南側での初めての本格的な調査であった．これまで暗渠北側で実施された9901・0006・0104・0119の各調査地点の結果からは，古墳時代前期から古代にかけての集落が広がり，遺構の分布が非常に密であることや，遺物包含層・遺構面は東側ほど浅くなることが分かっていた．暗渠の南側では発掘調査を２度行っている（9601・9807）．これ以外，特に西側では旧河川と思われる砂層が検出されたのみで，遺構の分布状況は不明のままであった．この様な点で，今回の発掘調査は暗渠南側での遺構の内容や密度，分布状況を把握する好機となった．

既往の調査では，遺物包含層や地山が西南に向かって傾斜し低くなっていることは確認されていた．0411調査地点では，包含層を検出する深さは地表下約２ｍと深く，削平や撹乱による破壊は他地点と比較すると非常に少なく，遺構の遺存状態は良好だった．古代の遺物包含層では近世以降の溝のほか，古代のものと思われる畑址が検出された．また，先に実施された医学部発生医学研究センター建設工事に伴う発掘調査で，本荘地区構内では初めて検出された，水田の床土のような土層が確認された．周辺一帯では古代以降，水田化するという調査結果が得られており，これに符合するものと思われる．

さらに，遺物包含層の下からは，古代と古墳時代の竪穴住居址・掘立柱建物址・溝等の遺構が検出された．これらにより，暗渠の南側にも古墳時代から古代にかけて

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧（アミ部分は本年度調査した地区を示す）

No.	地区名（学部名）	所在地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備　考
1	黒髪北地区（法・文・教・大教センター）黒髪北地区（教育学部附属養護学校）	熊本市黒髪２丁目40－１ 熊本市黒髪５丁目17－１	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
2	黒髪南地区（工・理）	熊本市黒髪２丁目39－１	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
3	京町地区（教育学部附属小・中学校）	熊本市京町本丁５－12	京町台遺跡	集落址	弥生・近世	
4	城東地区（教育学部附属幼稚園）	熊本市城東５－９	熊本城址	城館址・熊本城関連遺構	近世	
5	教育学部新南部農場	熊本市新南部居屋敷240－１	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
6	理学部臨海実験所	上天草市松島町合津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査によって貝塚でないことが判明
7	本荘南地区（医）	熊本市本荘２丁目２－１	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	
8	本荘北地区（医学部附属病院）	熊本市本荘１丁目１－１	本庄遺跡（熊大病院敷地遺跡）	散布地・集落址・墓地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近代	
9	九品寺地区（医療技術短期大学部）	熊本市九品寺４丁目24－１	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	周辺遺跡
10	薬学部（薬）	熊本市大江本町５－１	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
11	大江地区	熊本市渡鹿４丁目１－１	大江遺跡	集落址	奈良・平安	
12	宇留毛地区（職員宿舎）	熊本市黒髪７丁目	宇留毛神社周辺遺跡群	散布地	弥生・奈良・平安・古墳・中世	

図１　黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）

表２　2004年度調査一覧

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
04・4・7	0401	黒髪団地北地区教室新築工事（渡廊下設置）	立会調査	33.8㎡		遺構・遺物なし
04・4・9		本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事	試掘調査	10.44㎡	古代	溝？・土師器
04・4・13～5・31	0402	本荘団地南地区発生医学研究センター建設工事	発掘調査	1241.75㎡	古代	土師器・須恵器・縄文土器
04・5・26		黒髪団地北地区熊本大学大学院社会文化科学研究科研究室新築工事	試掘調査	7.76㎡	古代	ピット・土師器
04・5・14 04・10・14	0403	本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事	立会調査	150㎡	古代	土師器
04・5・21	0404	薬学部地区植物園棚支柱ほか設置工事	立会調査	3.3㎡		遺構・遺物なし
04・6・25	0405	薬学部地区宮本記念館新営機械設備及びその他工事	立会調査	68.48㎡		遺構・遺物なし
04・6・28		本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備工事	試掘調査	10㎡	古代・縄文	土師器・縄文土器・土壙
04・5・24 04・5・26 04・6・4 04・10・26～28 04・11・12 04・11・29	0406	薬学部地区宮本記念館（仮称）建設工事（旧建物撤去・樹木撤去・電気配線・給水管配管・ガス管配管・樹木移植）	立会調査	1332.4㎡		遺構・遺物なし
04・7・26	0408	宇留毛地区小積宿舎揚水管漏水配管改修工事	立会調査	26.2㎡		遺構・遺物なし
04・7・29 04・8・6 04・8・20	0409	黒髪団地北地区記念碑設置工事	立会調査	72㎡		遺構・遺物なし
04・8・23		黒髪団地南地区理学部駐輪場取設工事	試掘調査	11㎡	古代	柱穴・須恵器・土師器
04・8・9 04・8・10～11 04・11・5 04・11・11	0410	黒髪団地北地区熊本大学大学院社会文化科学研究科研究室新築工事	立会調査	370㎡		遺構・遺物なし
04・8・17～19・23 04・9・3 04・9・14～22 05・1・27～（継続中）	0411	本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備（ポンプ室・RI実験棟取壊等）工事	立会調査	420㎡		土師器・須恵器・縄文土器・竪穴住居址・溝・ピット
04・9・16	0412	本荘団地北地区附属病院都市ガス漏配管修理工事	立会調査	5.7㎡		遺構・遺物なし
04・9・16	0413	京町地区附属中学校台風被害による倒木起し	立会調査	8㎡		遺構・遺物なし
04・9・16	0414	黒髪団地南地区工学部台風被害による倒木起し	立会調査	4㎡		遺構・遺物なし
04・9・21	0415	薬学部地区台風被害による倒木起し	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし
04・9・21	0416-1	本荘団地北地区附属病院台風被害による倒木起し	立会調査	8㎡		遺構・遺物なし
04・9・22	0416－2	本荘団地中地区医学部台風被害による倒木起し	立会調査	1.5㎡		遺構・遺物なし

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
04・10・12	0417	黒髪団地北地区重要文化財案内板設置工事	立会調査	0.5㎡		遺構・遺物なし
04・10・12	0417	黒髪団地南地区重要文化財案内板設置工事	立会工事	0.5㎡		遺構・遺物なし
04・10・19	0418	黒髪団地北地区夏目漱石記念碑標柱設置工事	立会調査	0.3㎡		遺構・遺物なし
04・10・22	0419	本荘団地北地区附属病院福利厚生施設引込配線工事	立会調査	2.23㎡		遺構・遺物なし
04・11・1～12・28	0411	本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備	発掘調査	551㎡	古代・古墳・縄文	竪穴住居址・掘立柱建物址・溝・畑・土師器・須恵器・縄文土器・鉄鏃・勾玉・石器
04・11・16	0420	薬学部地区テニスコート整備工事	立会調査	695㎡		遺構・遺物なし
04・11・29	0421	黒髪団地南地区さく井設備工事	立会調査	43㎡		遺構・遺物なし
04・12・6	0422	本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事	立会調査	66.4㎡		遺構・遺物なし
04・12・15		黒髪北地区情報ネットワーク館関連工事	試掘調査	18㎡	古代	土師器・須恵器 住居址・柱穴
04・12・24	0423	黒髪団地北地区記念館（木造）取壊工事	立会調査	754㎡		遺構・遺物なし
04・1・11	0424	本荘団地北地区ボンベ庫取設工事	立会調査	14.5㎡		遺構・遺物なし
05・2・1～2，7～9	0425	黒髪北地区情報ネットワーク館事前工事（配管工事）	立会調査	160.08㎡	古代	土師器・須恵器
05・2・21～（継続中）	0425	黒髪北地区情報ネットワーク館建設工事	発掘調査	1170.4㎡	古代	土師器・須恵器
05・2・4，8～9	0426	本荘団地北地区防火水槽取設工事	試掘・発掘調査	84㎡	中～近世	土師器・須恵器 馬骨・銅銭
05・2・4	0427	黒髪団地北地区資料館前水道管漏水修理工事	立会調査	1.5㎡		遺構・遺物なし
05・2・21～22	0428	黒髪団地南地区樹木移植工事	立会調査	19㎡		遺構・遺物なし
05・2・21	0429	薬学部地区雨水設備工事	立会調査	4.25㎡		遺構・遺物なし

の集落が営まれたことが判明した．

遺物については，まだ整理・精査が途上のため，詳細は今後の課題であるが，古墳時代について言えば，暗渠北側で出土している土器群と，今回調査した土器群はやや時期が異なるように思われる．また，本荘北地区での調査において，縄文時代の遺物も確認されてきたが，今回も縄文時代の遺物が出土した．これまでは，破片が散在していたのに対し，今回は，復元は困難であるが比較的場所と量がまとまっていたのが違う点として注目される．本調査地点では，古代の遺物包含層が厚いため，下の文化層への影響が少ないことも考えられる．出土量は決して多くはないが，今後とも縄文時代の遺物・遺構に注意を払う必要があることを，再認識した．

また，明確な遺構は確認されなかったが，祭祀を行ったと思われる遺物群の出土があった．本調査区で確認された遺構は建物・住居と溝，畑という「生活の場」を連想させるものである．その中において，上記の祭祀がどのようなものであったか，各遺構と時代性との比較・検討の結果が注目される．

現在進行中の基幹・環境整備事業の周辺設備工事に伴う立会調査においても，住居址や溝等が確認されている．本調査区の北側，及び東側にも集落が広がることが判明しつつあり，今後開発の対象となることが予想される暗渠南側一帯の有力な情報を得た調査であった．

このように，本年も貴重な資料を得た．しかし，例年指摘しているように，これらの資料を学術資料として，広く活用できるようにするための体制は未だ確立されないままである．過去および将来の調査資料が，活かされるための体制作りが切望される．

第II章　発掘調査

II—1　0411調査地点

1. 遺跡の立地と周辺地形

本調査地点は，本荘北地区に所在する本庄遺跡内にある．阿蘇に発した白川は熊本市内に入り大きな蛇行を繰り返したあと，熊本城の南東部を迂回して有明海に注ぐ．本荘地区は，白川が最も熊本城に近づいた地点の，左岸の自然堤防上（標高14m）に立地する．

本荘北地区では校舎や病棟の新営に伴い，比較的規模の大きな調査が行われている．その既往の調査で古墳時代前期から古代にかけての集落が確認され，一昨年には弥生時代前期初の溝も検出された．遺構の分布は，白川に近いほど濃密であることが分かっている．

しかし，これまでの調査は本荘北地区を東西に貫く川（暗渠）の北側に集中しており，南側の遺構の遺存や分布状態については不明であった．

2. 調査の概要

平成15年度に計画された基幹・環境整備事業である．既存のRI実験棟・ポンプ室・地下の各種水槽等を解体・撤去し，新しく受水槽・ポンプ室等を建設する事業である．

予定地内にあった支障配管を先行して切り替え，発掘調査を実施した．また，ガス・電気・給排水などの付帯工事については現在立会調査（発掘調査）を随時進めている途中である．終了したものについては，第III章で報告する．

＜調査面積＞

551㎡

＜調査期間＞

2004年11月1日～12月28日

＜調査員・参加者＞

大坪志子．

岡田イツ代，奥村力，奥村洋子，河野直美，河野義勝，木村洋子，白石美智子，杉村昇，高山はるよ，田中眞理子，谷優美子，田部孝子，土谷順子，鶴田峯子，中島公子，西山チカエ，浜田百合子，早田咲百合，番山明子，堀川貞子，前原タツ子，松井昭子，宮村邦子，森川征子，森川護，森田登，山本朝子．

3. 調査の結果

a　基本層序（図5）

本調査区では，本庄遺跡の中心となる古代の包含層や遺構面（地山）が地表から深く，若干の撹乱は受けていたが遺構の遺存状態は良好だったと言えよう．

調査区西壁では1層から3層まで，南壁では6層までが近世～現代の埋土である．西壁の4層（南壁9層）は，赤銅色の鉱物が沈殿・凝固した層で，5層（同10層）は粘土質層が固まった層であり，水田の床土のようである．6層（同11層）は5層と基本的な土質は変わらず固まっていない層で，5・6層は本来同一の古代の遺物包含層と思われる．7層（同12層）は，上層と下の地山との中間層である．

b　検出遺構と遺物

今回の調査で検出された主な遺構は，近世～近代の溝4条，柱穴群，古代の畑址，溝3条，掘立柱建物4棟，竪穴住居址3基，古墳時代の竪穴住居址3基がある．これらが検出された遺構面は大きく2面に分けられ，近世以降の溝と柱穴群および古代の畑址が上面で，古代の溝，竪穴住居址，古墳時代の竪穴住居址は下面で検出された．

＜溝＞

近世以降の溝

1～3号溝

調査区の南を東西に併行して走る溝である．幅は1号溝からそれぞれ0.76m，0.46m，0.78m，深さは0.22m，0.1m，0.3mである．東端・西端ともに現代の撹乱によって不明である．3条とも整然と並んでいるが，調査区西側で1号溝と2号溝の間の立ち上がりがなくなり，

写真1　1～3号溝（東より）

図２　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）

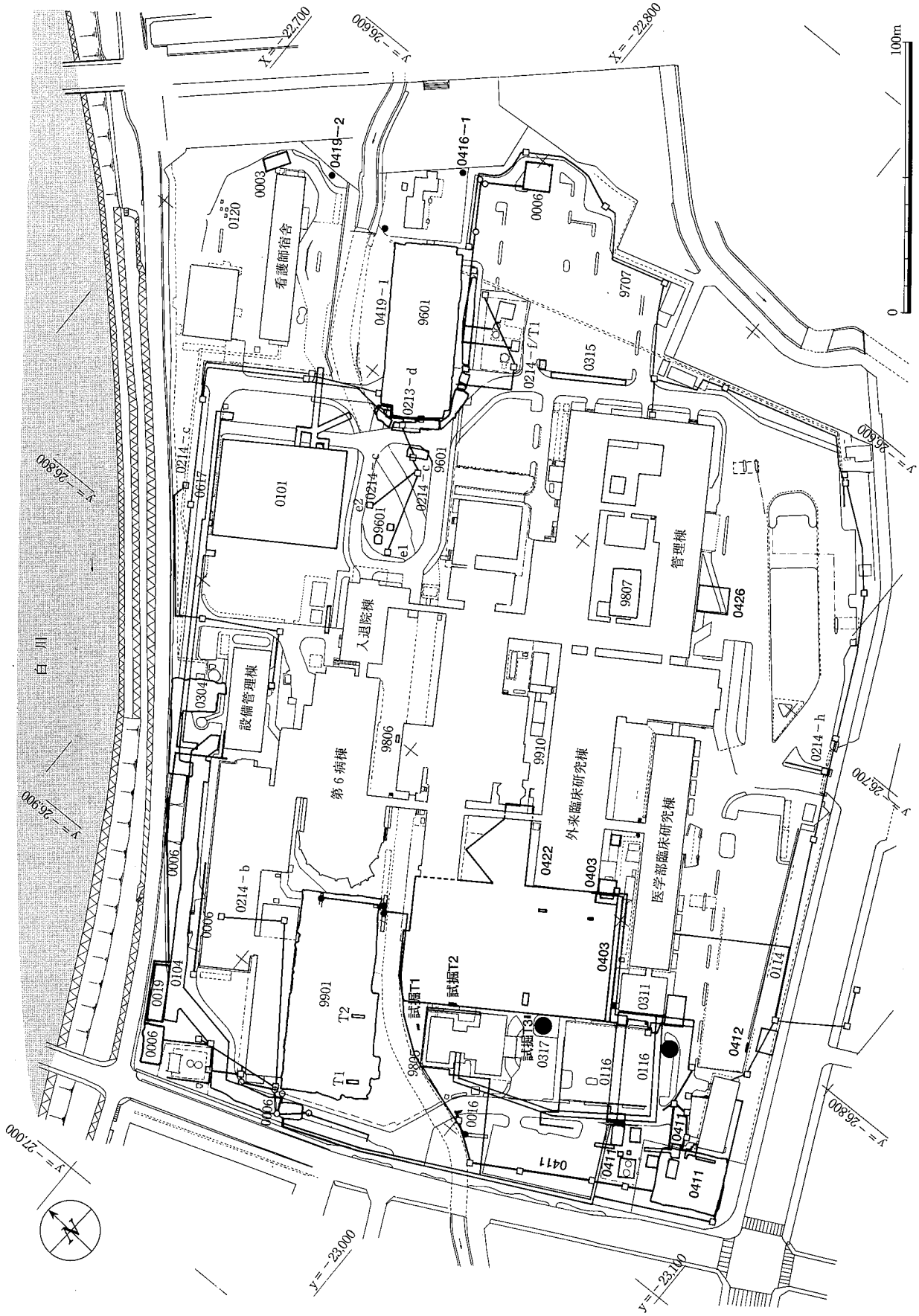


図３　0411調査地点遺構配置図１（1/150）

図 4　0411調査地点遺構配置図 2 （1/150）

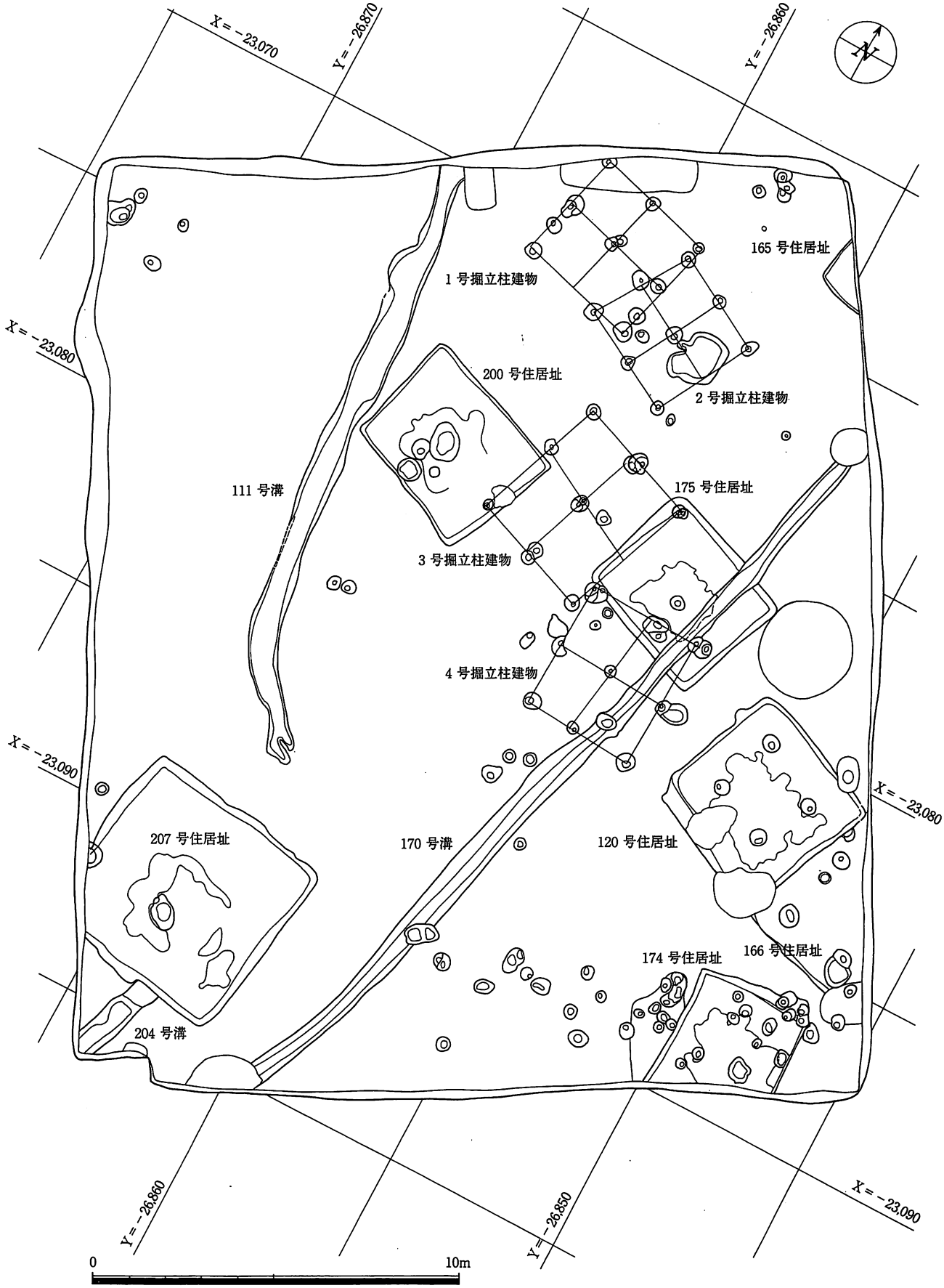
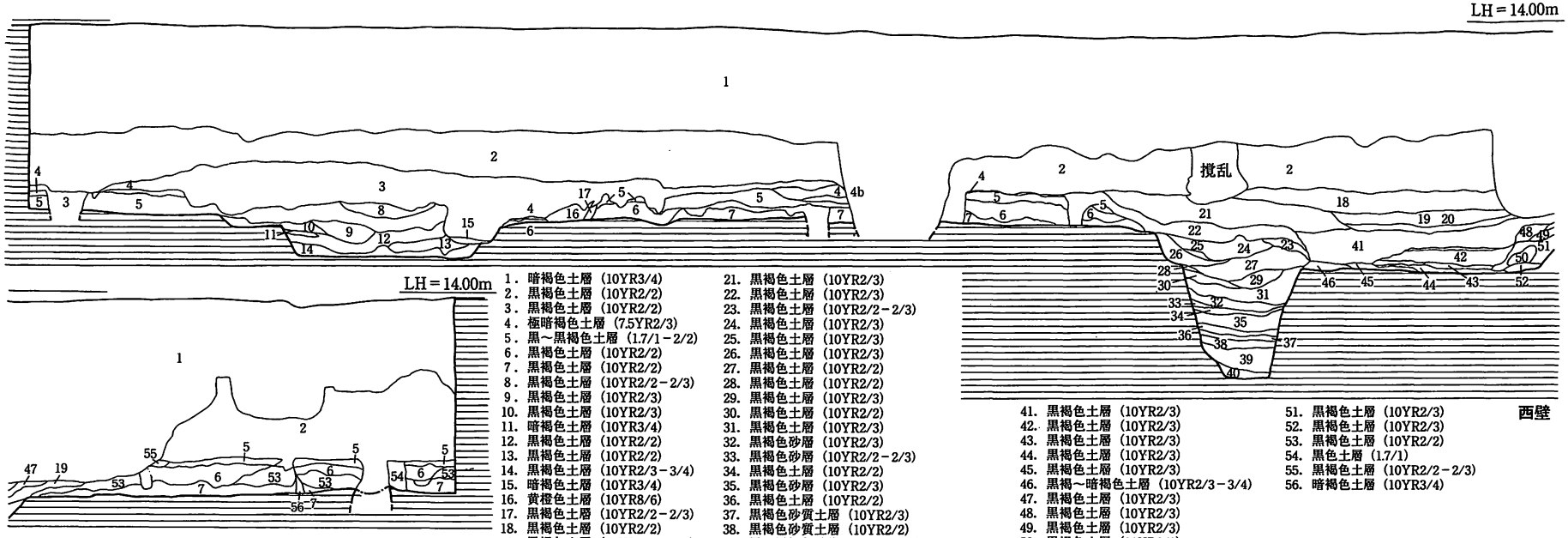
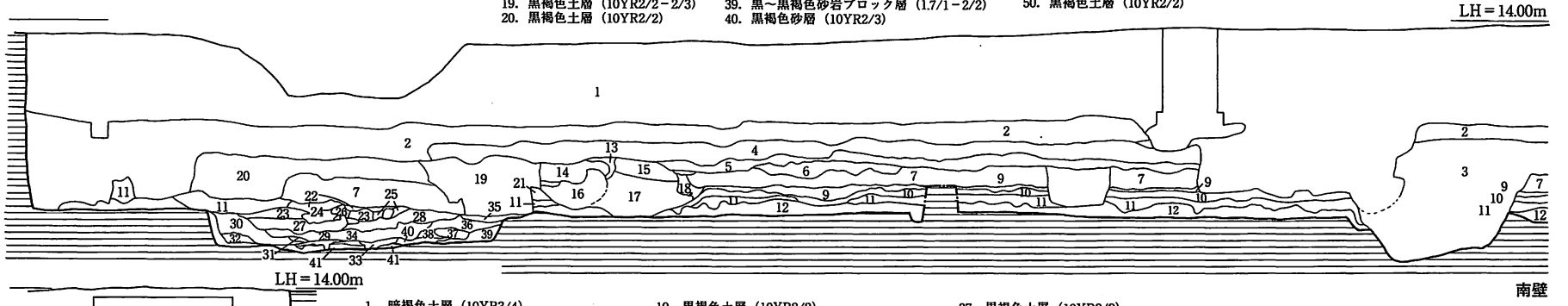
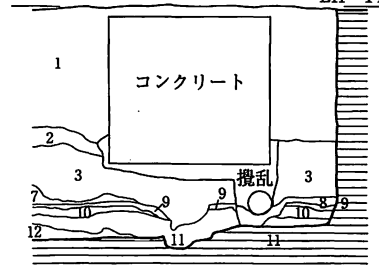


図5 0411調査区西壁・南壁土層断面実測図（1/80）



1．暗褐色土層（10YR3/4）
2．黒褐色土層（10YR2/2）
3．黒褐色土層（10YR2/2）
4．極暗褐色土層（7.5YR2/3）
5．黒～黒褐色土層（1.7/1－2/2）
6．黒褐色土層（10YR2/2）
7．黒褐色土層（10YR2/2）
8．黒褐色土層（10YR2/2－2/3）
9．黒褐色土層（10YR2/3）
10．黒褐色土層（10YR2/3）
11．暗褐色土層（10YR3/4）
12．黒褐色土層（10YR2/2）
13．黒褐色土層（10YR2/2）
14．黒褐色土層（10YR2/3－3/4）
15．暗褐色土層（10YR3/4）
16．黄橙色土層（10YR8/6）
17．黒褐色土層（10YR2/2－2/3）
18．黒褐色土層（10YR2/2）
19．黒褐色土層（10YR2/2）
20．黒褐色土層（10YR2/2）
21．黒褐色土層（10YR2/3）
22．黒褐色土層（10YR2/3）
23．黒褐色土層（10YR2/2－2/3）
24．黒褐色土層（10YR2/3）
25．黒褐色土層（10YR2/3）
26．黒褐色土層（10YR2/3）
27．黒褐色土層（10YR2/2）
28．黒褐色土層（10YR2/2）
29．黒褐色土層（10YR2/3）
30．黒褐色土層（10YR2/2）
31．黒褐色土層（10YR2/3）
32．黒褐色砂層（10YR2/3）
33．黒褐色砂層（10YR2/2－2/3）
34．黒褐色土層（10YR2/2）
35．黒褐色砂層（10YR2/3）
36．黒褐色土層（10YR2/2）
37．黒褐色砂質土層（10YR2/3）
38．黒褐色砂質土層（10YR2/2）
39．黒～黒褐色砂岩ブロック層（1.7/1－2/2）
40．黒褐色砂層（10YR2/3）
41．黒褐色土層（10YR2/3）
42．黒褐色土層（10YR2/3）
43．黒褐色土層（10YR2/3）
44．黒褐色土層（10YR2/3）
45．黒褐色土層（10YR2/3）
46．黒褐～暗褐色土層（10YR2/3－3/4）
47．黒褐色土層（10YR2/3）
48．黒褐色土層（10YR2/3）
49．黒褐色土層（10YR2/3）
50．黒褐色土層（10YR2/2）
51．黒褐色土層（10YR2/3）
52．黒褐色土層（10YR2/3）
53．黒褐色土層（10YR2/2）
54．黒色土層（1.7/1）
55．黒褐色土層（10YR2/2－2/3）
56．暗褐色土層（10YR3/4）





1．暗褐色土層（10YR3/4）
2．黒褐色土層（10YR2/2）
3．黒褐色土層（10YR2/3）
4．黒褐色土層（10YR2/2）
5．黒褐色土層（10YR2/3）
6．黒褐色土層（10YR2/2）
7．黒褐色土層（10YR2/2）
8．黒褐色土層（10YR2/3）
9．極暗褐色土層（7.5YR2/3）
10．黒～暗黒褐色土層（10YR1.7/1－2/2）
11．黒褐色土層（10YR2/2）
12．黒褐色土層（10YR2/2）
13．黒褐色土層（10YR2/2）
14．黒褐色土層（10YR2/2）
15．黒褐色土層（10YR2/2）
16．黒褐色土層（10YR2/2）
17．黒褐色土層（10YR2/2）
18．黒褐色土層（10YR2/2）
19．黒褐色土層（10YR2/2）
20．暗オリーブ褐色土層（2.5YR3/3）
21．黒褐色土層（10YR2/2）
22．黒褐色土層（10YR2/2）
23．黒褐色土層（10YR2/2）
24．暗褐色土層（10YR3/4）
25．黒褐色土層（10YR2/2）
26．黒色土層（1.7/1）
27．黒褐色土層（10YR2/2）
28．黒褐色土層（10YR2/2）
29．黒褐色土層（10YR2/2）
30．黒褐色土層（10YR2/2－2/3）
31．黒褐色土層（10YR2/2）
32．黒褐色土層（10YR2/2）
33．黒褐色土層（10YR2/2）
34．黒～暗黒褐色土層（10YR1.7/1－2/2）
35．黒褐色土層（10YR2/2）
36．黒褐色土層（10YR2/2）
37．黒褐色土層（10YR2/2）
38．黒褐色土層（10YR2/2）
39．黒～暗黒褐色土層（10YR1.7/1－2/2）
40．黒褐色土層（10YR2/2－2/3）
41．暗褐色土層（10YR3/4）

0　4m

一体化しているようだった．遺物としては土師器などの破片が若干含まれるが，埋土から近世末以降のものと思われる．

30号溝

調査区の北西隅を南北に走る溝である．現状で幅約4.5m，深さは約0.9mである．埋土を除去し5層上面レベルで検出した．断面の様子から，後述する本来あった33号溝を近世に再度掘削し，拡張したようである．底には鉱物の被覆があり，水の作用が強く働いたことが観取される．遺物は黒色土器の椀のほか，近世末以降と思われる磁器の破片等があるが，全体的に出土遺物は少なかった．

写真2　30号溝・33号溝（南より）

85号溝

調査区の東壁にそって南北に走る溝である．溝の東側は調査区外であり，正確な幅や深さは不明である．出土遺物は土師器片があるが，この溝も埋土から近世末以降のものと思われる．

古代の溝

33号溝

30号溝の中で検出した．30号溝の底を検出する際，東側に掘り込みがあることが判明し，33号溝として掘削した．30号溝の底面レベルで幅約1 m，深さ約1.3mで，幅に対して深さのある，狭長な溝である．類似の溝は，同じ本荘北地区内の9601調査地点で検出されている．遺物は土師器や須恵器の砕片がわずかに出土した．イノシシと思われる動物骨片（顎・歯）も出土した．8世紀～9世紀に掘削されたものと思われる．

111号溝

調査区を西北よりに南北に走る溝である．70号溝が東に振れるのに対して，111号溝は西に5°程振れる．後世の畑址の西端に位置し，畝に切られていた．南端は次第に浅くなり，自然に消滅する．遺物はほとんどない．畑を耕作した際に，散逸してしまったようだ．

170号溝

調査区の中央，やや南よりを南北に走る溝である．東に15°ほど振れる．幅約0.7m，深さは約0.3mである．底部が狭いV字状の溝である．当初は175号竪穴住居址との切り合いが不明であったが，175号住居址を若干下

写真3　111号溝（北より）

げたところ，170号溝が切っていることが分かった．遺物はほとんどないが，7世紀後半ごろの須恵器の高坏脚部が出土している．

写真4　170号溝（北より）

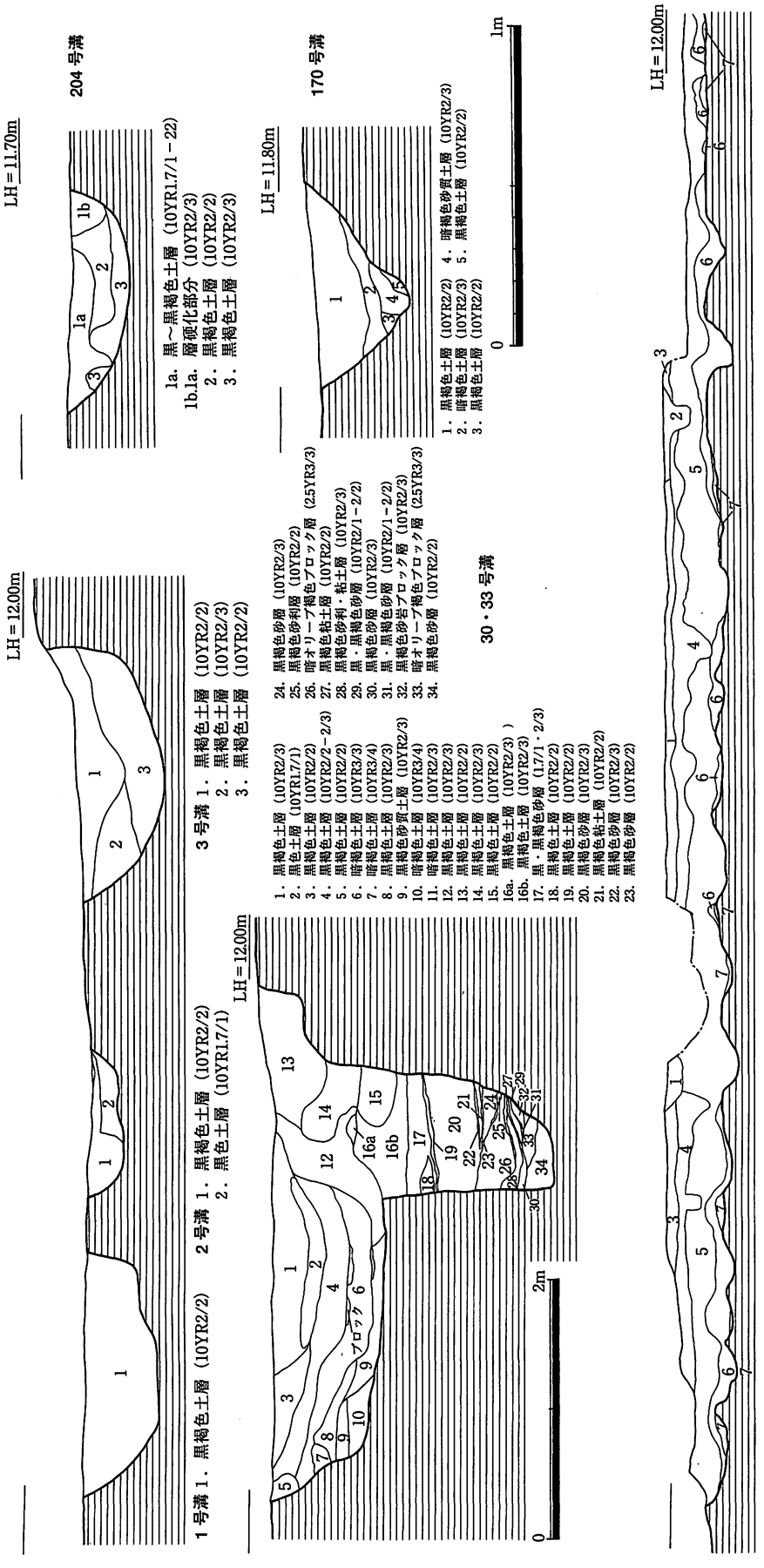
204号溝

調査区の，丁度南西隅から北に伸びる溝状の遺構である．207号住居址の手前で土質が変わり，底が立ち上がるように盛り上がる．207号住居址を切る，あるいは北に伸びる様子はなかった．

＜掘立柱建物址＞

調査区の北東部で検出された．調査時には柱穴の配列を把握できなかったが，測量図で確認した．全部で4棟あり，すべて2間×2間の掘立総柱建物である．4号掘立建物址がおおよそ北を向くほかは，2号・3号掘立柱建物が東に大きく振れ，4号掘立柱建物は逆に若干西に

図6　各溝の土層断面実測図（1/20・1/50）・畝土層断面実測図（1/50）



振れている．2号建物以外は，同じ場所で立替を行っていることが分かる．古い土で構成される2号が最も古いと思われる．建物の方向から1号と3号が同時期あるいは近い時期のものと思われる．建物の方向としては，4号が最も新しいようだが，3号の新しい建物よりは，柱穴の土は古い．3号が時間を置いて同じ場所で立替を行ったとも考え難く，3号の古い建物と4号との前後関係は分からない．暗渠北側の9901調査地点で検出した掘立柱建物址は，おおむね北を向いている．本調査地点で検出した建物のように，大きく東に振れる建物はなく，様子が異なる．

＜畑址＞（図1・6）

近世の溝などを検出した最初の遺構面は，鉱物が沈殿・凝固した層で覆われており，その下には粘性が高く，がちがちに固まった土の層であった．この土を下げると，畑の畝が筋状に検出された．検出した畝も，水の作用をうけたのだろう，非常に硬く固まっていた．

畝の配列には3方向ある．調査区の北壁中央部から南に向かって，ほぼ東西を向いた畝の列があり（①），調査区中央付近以南には北東—南西向きの畝の列が展開する（②）．また，極わずかに北北西—南南東向きの畝があり，これがもっとも新しいものである（③）．①と②では①が先である．畝は北側ほど高く，遺存状態が良かった．調査区中央部から南部にかけては，畝の重複が激しく，上層との分層が困難だったため，畝の検出が困難であった．地山を被覆し，畝を構成する硬い土が，調査区南部では浅いピット状に地山に入っていた．整然と並び，長軸の向きが②の畝と同じことから，これらも畝を構成していたものと思われる．調査区の西隅は，後述する遺構の遺存状態から，畑の影響はなかったと思われる．畑は本来，調査区の南壁付近まで，上述のピット列を西端として②方向の畝が帯状に広がっていたと思われる．

写真5　畑址（北より）

＜竪穴住居址＞

古代の竪穴住居址

120号住居址（図7）

調査区南東よりで検出した．約4×4.5mで，北から東に20°程振れる．削平され，深さは20cm程度しか残っていなかった．南壁中央，やや西よりにカマドが作りつけられ，カマドの前には硬化面があった．遺物は土師器片が数点出土したのみである．

写真6　120号竪穴住居址（北より）

165号竪穴住居址

調査区の北西部で，東壁下に住居址の南西隅のみが検出された．全体の規模などは不明である．遺物は土師器片が数点出土した．

写真7　165号竪穴住居址（南より）

166号竪穴住居址（図7）

120号竪穴住居址の東側で検出された．西側は120号住居址によって切られており，北西半分は調査区外である．削平を受け，数センチの深さしか残っていなかった．166号住居址に伴うと思われる，カマドの袖石の破片等が散在していたが，検出した住居の範囲ではカマドの掘方などは検出されなかった．

図7　120号・166号竪穴住居址実測図（1/50）

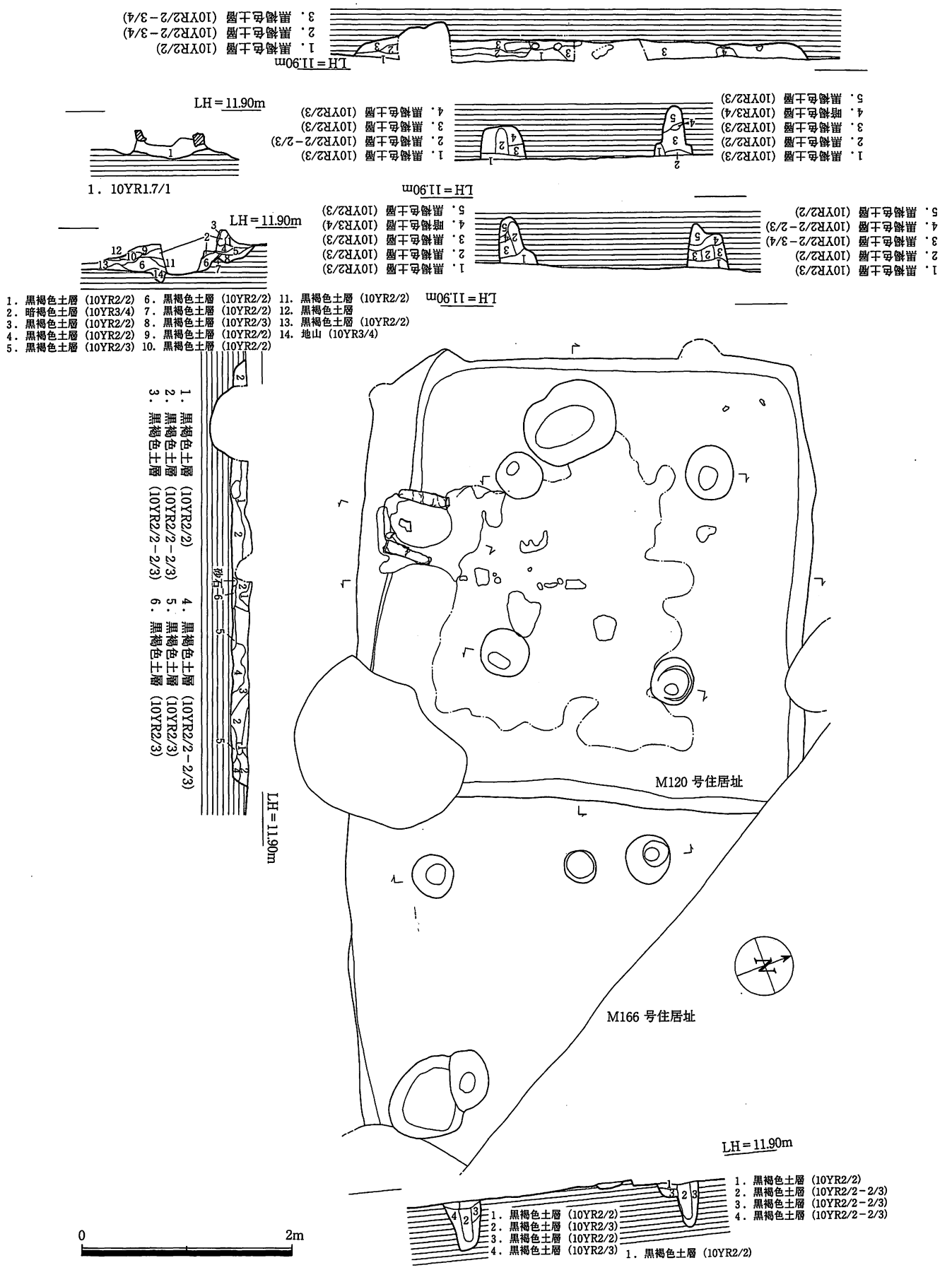


写真８　166号竪穴住居址（南より）

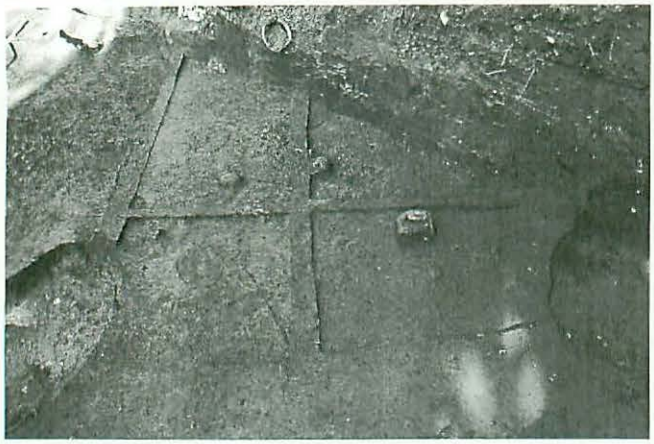


写真９　174号竪穴住居址（北より）

古墳時代の竪穴住居址

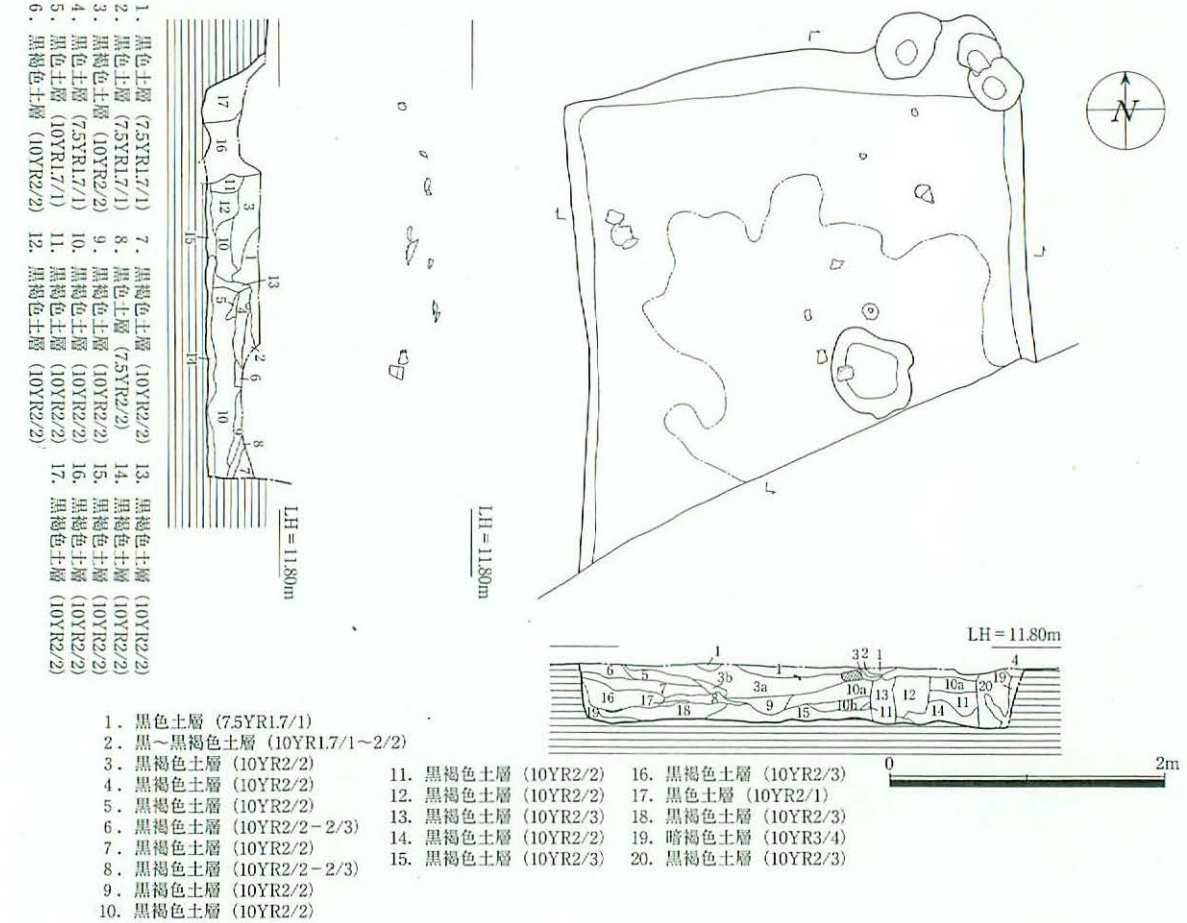
174号竪穴住居址（図８）

調査区南東部で検出した．174号竪穴住居址の上には，カマドの跡と思われる砂岩塊や焼土があったため，当初は古代の住居址があると思っていた．しかし，焼土・カマドの位置と住居のプランなどが符合しないため，別の住居として掘り下げた．現状で約3.5×４ｍ，深さ約0.65m である．北を向く．住居址の中央やや東よりに，炉跡と思われる，細かな炭がたまった窪みがあり，周囲に硬化面があった．高坏などの土師器が出土した．5世紀前半ごろと思われる．

175号竪穴住居址（図９）

調査区中央，やや東よりで検出した．約3.6×4.2m，深さ約0.5m である．向きは北に対して20°程東に振れる．174号竪穴住居址と同様に，住居の中央付近には，炉跡と思われる細かな炭混じりの土が堆積した窪みがあり，周辺に硬化面があった．出土遺物には高坏や甕などの土師器がある．5世紀前半～中頃と思われる．黒曜石の破片も出土したが，流れ込みであろう．

図８　174号竪穴住居址実測図（１/50）



1．黒色土層（7.5YR1.7/1）
2．黒～黒褐色土層（10YR1.7/1～2/2）
3．黒褐色土層（10YR2/2）
4．黒褐色土層（10YR2/2）
5．黒褐色土層（10YR2/2）
6．黒褐色土層（10YR2/2－2/3）
7．黒褐色土層（10YR2/2）
8．黒褐色土層（10YR2/2－2/3）
9．黒褐色土層（10YR2/2）
10．黒褐色土層（10YR2/2）
11．黒褐色土層（10YR2/2）
12．黒褐色土層（10YR2/2）
13．黒褐色土層（10YR2/3）
14．黒褐色土層（10YR2/2）
15．黒褐色土層（10YR2/3）
16．黒褐色土層（10YR2/3）
17．黒色土層（10YR2/1）
18．黒褐色土層（10YR2/3）
19．暗褐色土層（10YR3/4）
20．黒褐色土層（10YR2/3）

写真10　175号竪穴住居址（北より）

200号竪穴住居址（図９）

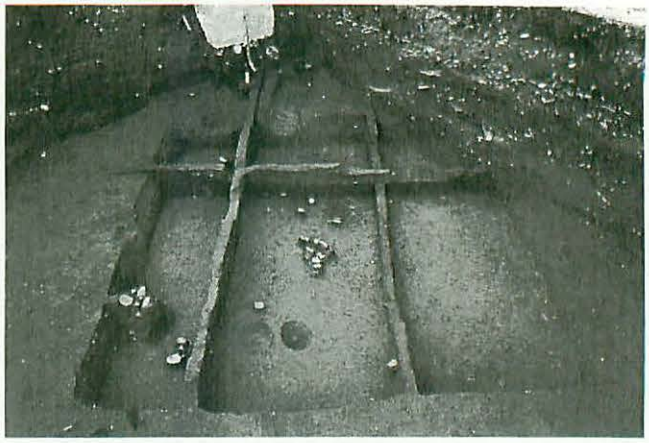
調査区中央，やや北よりで畑址の下から検出された．畝を検出する際，周辺で特に遺物の混入が多く，土質も異なったため，下に遺構があるものと想定していた．175号竪穴住居址に類似した一辺が長い住居址である．現状で約５×3.5m，深さは0.2m余，東に20°程振れる．東壁中央に炭と焼土の塊があったが，特に施設ではなかった．他の住居址と同様に，住居の中央部には炉跡と思われる窪みがあった．遺物には高坏・甕など土師器があるが，畑の開墾時に散逸しているようである．

写真11　200号竪穴住居址（西より）

207号竪穴住居址（図10）

調査区南西隅で検出された．本調査区において古墳時代のものでは最も大きな住居である．大きさは約5.4×5.7m，深さは0.6mで，向きはおおよそ他の住居址と同じであるが，175号や200号住居址よりは北を向く．207号住居址にも，中央やや南寄りに炉跡と思われる窪みがあったが，その周囲にさらに四角形の浅い窪みがあった．硬化面は切り取ったようにこの窪部分にはなく，その周囲に広がっていた．遺物としては土師器の高坏や甕，鉄鏃などが出土している．5世紀前半ごろと思われる．

写真12　207号竪穴住居址（北より）



＜その他の遺構・遺物＞

177号祭祀（？）遺構（図11）

207号住居址付近の上面では，遺構のプランは確認できなかったが，遺物がまとまって出土した．遺物には須恵器の高坏，土師器で丹塗りの高坏，甕などがあるが，時期幅があるようである．また，長さ約20cmの刀子も出土した．刀子は刀身の半分程で折り，刃先側の半分を茎のほうに向けて置かれていた．これらの様子から，何らかの祭祀を行ったようである．

写真13　祭祀（？）遺物出土状況（南より）

勾玉

古代の包含層中から出土した．175号竪穴住居址南側で170号溝が交差する付近である．170号溝の真上であるが，170号溝の遺物ではないだろう．頭部や尾部は優美な曲線を描くが，頚部のくびれがなく，やや形態が退化した感がある．滑石製と思われる．

縄文土器群（図11）

調査区の北壁付近で縄文土器がまとまって出土した．遺構は検出されなかった．複数の固体の破片が集中しており，接合しても復元可能なものはなかった．黒色磨研系の土器など，後晩期のものである．

図９　175号・200号竪穴住居址実測図（１/50）

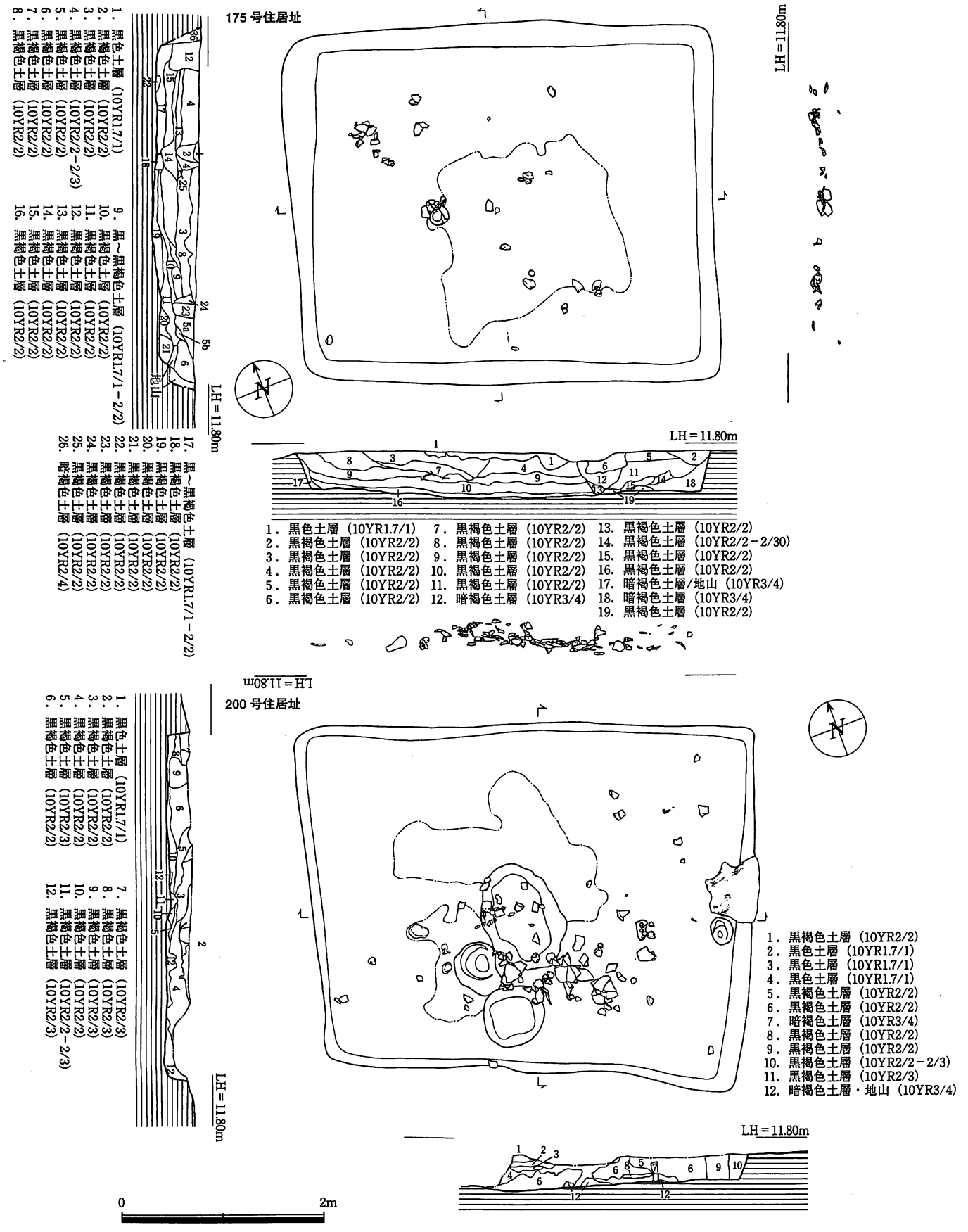
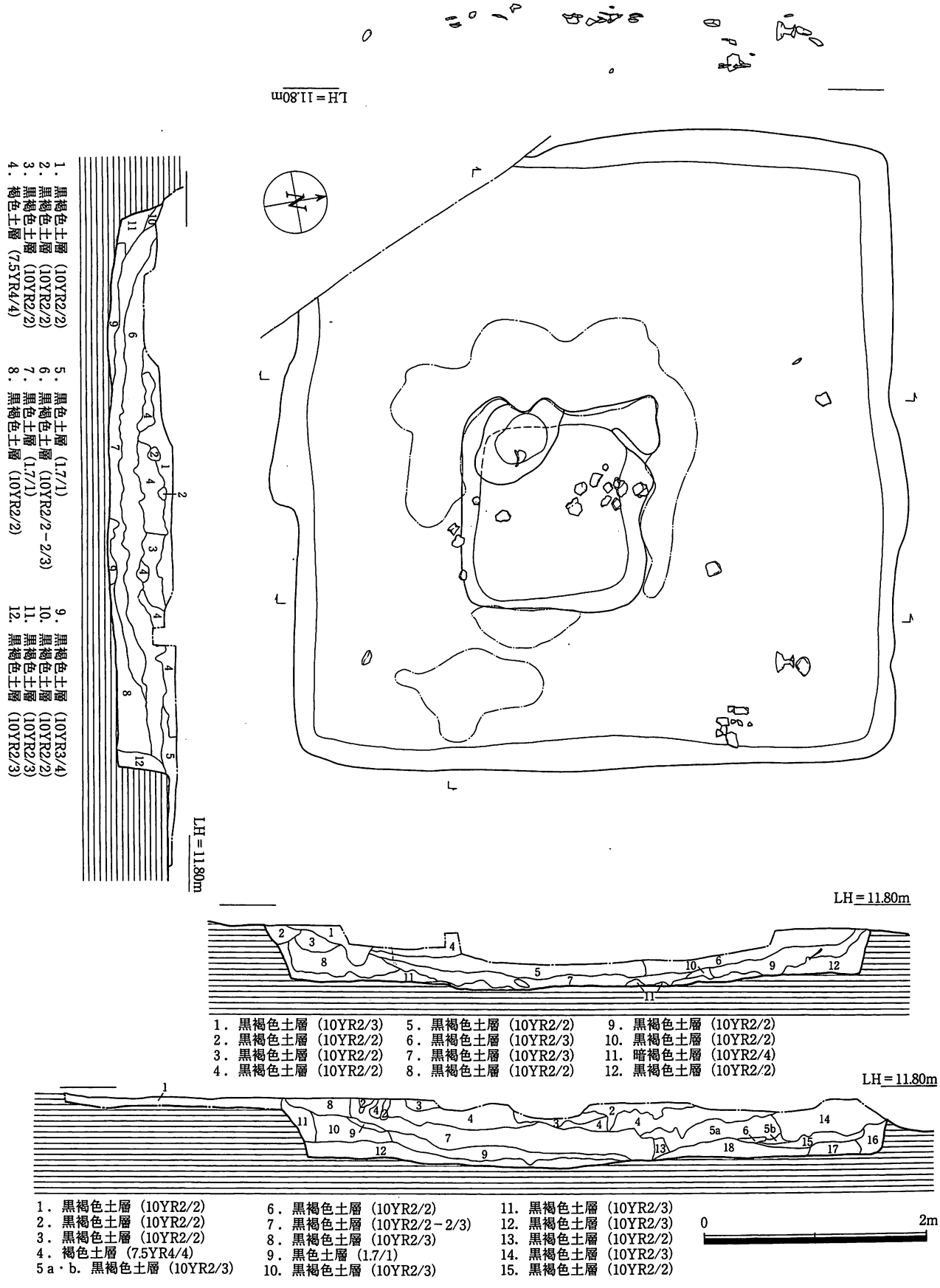


図10　207号竪穴住居址実測図（1/50）



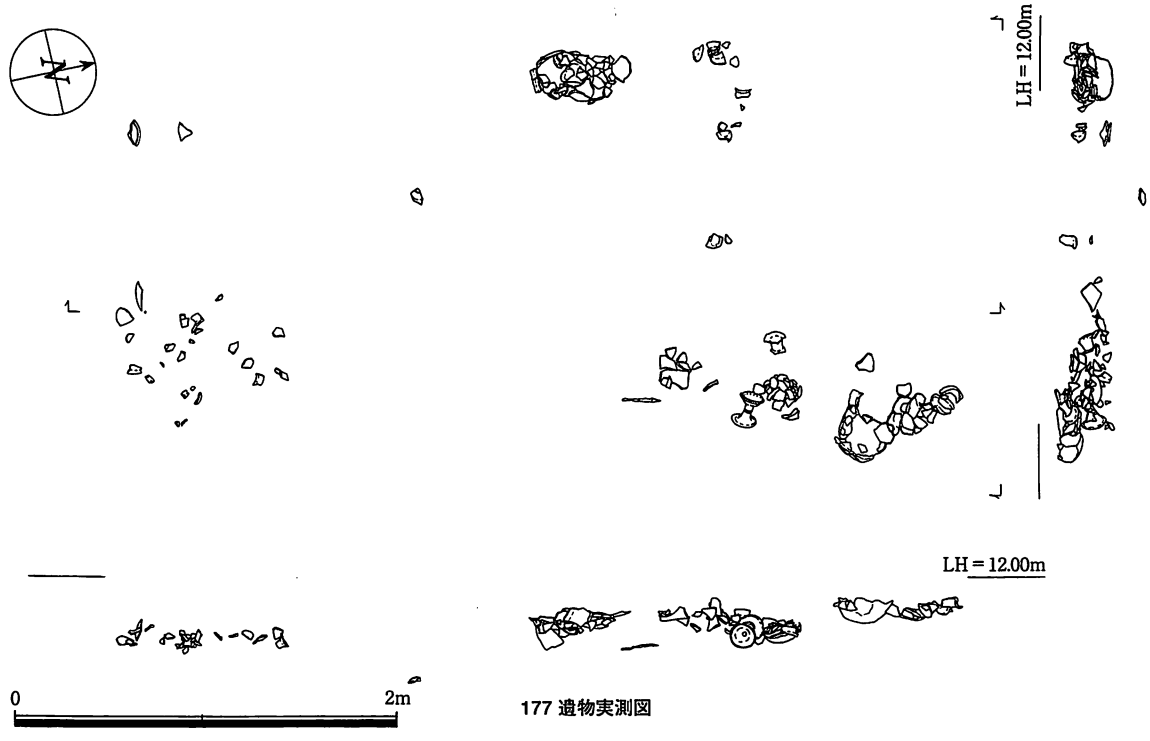
4. 成果と問題点

今回の調査は，先述したように本荘北地区を南北に分ける暗渠を境にすると，初めての西南側での本格的な調査であった．遺構の深さ，分布状況，内容を把握できたことは，今後の周辺での開発と調査において，有用な情報となった．

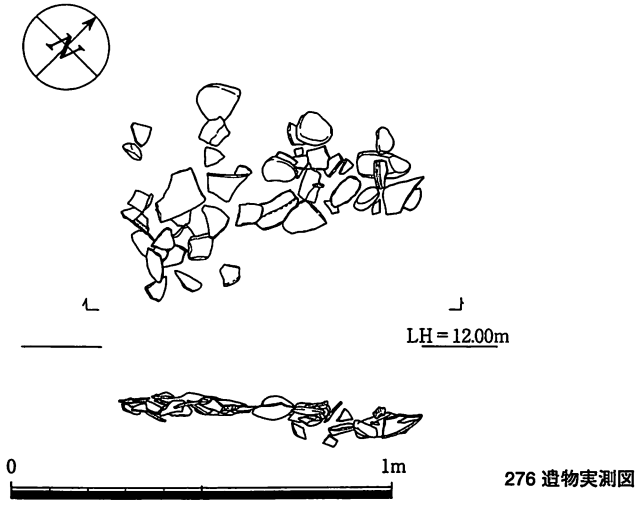
暗渠北側では，今回検出したような水田の床土状の土層はない．本年度初夏に実施された本荘南地区（医学部敷地内）では，先んじて類似の土層が確認されており，白川沿岸の土地利用と変遷を考える上で，貴重な情報となるだろう．

また，本調査区で検出した建物群は，北側の9901調査地点の建物群と若干の相違があった．古墳時代の住居址については，北側で検出した古墳時代前期の住居址群と今回検出した住居址群の向きは全く異なる．北側では，土地の傾斜に対して垂直方向をとっていたようだが，本調査区の住居址は概ね北にならっている．古代の掘立柱建物については，本調査区の建物は逆に北向きからははずれており，これらもまた，北側とは異なる．古墳時代から古代へ，集落の変遷などを考える上では面白い調査結果であり，遺物の精査による詳細な時間軸上での検討が今後必要である．

図11　177・276遺物実測図（1/40・1/20）



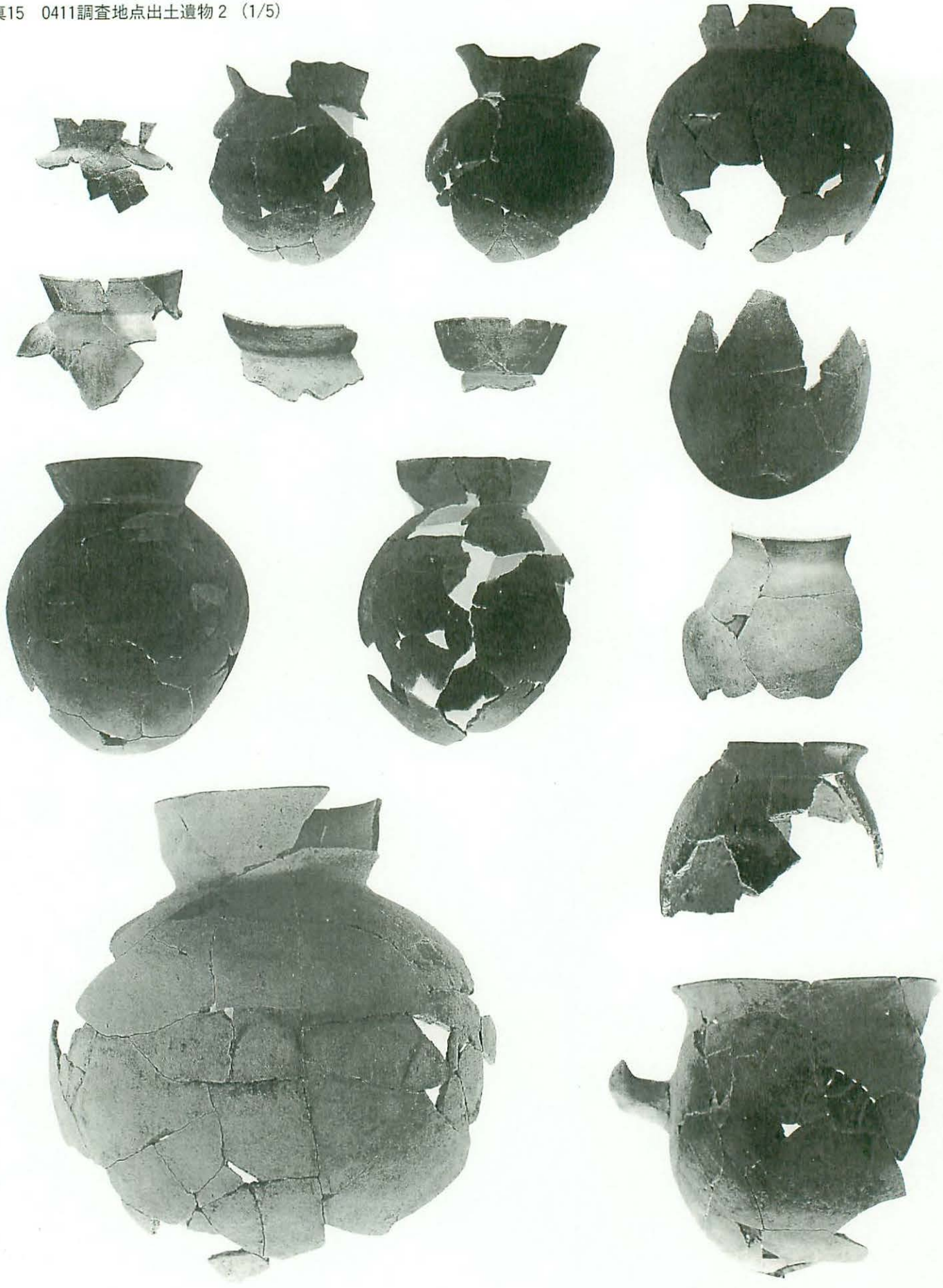
177 遺物実測図



276 遺物実測図

写真14　0411調査地点出土遺物１（1/3・1/2）

写真15　0411調査地点出土遺物２（1/5）



第Ⅲ章　立会・試掘調査

Ⅲ—1　黒髪北地区　（図12・13参照）

1. 黒髪団地北地区教室新築工事（渡廊下設置）に伴う立会調査（0401）

＜調査期間＞

2004年４月７日

＜調査対象面積＞

33.8㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

法科大学院の設置にむけた，校舎新築工事に伴い渡り廊下設置箇所の立会調査を実施した．地表下40cmの深さまで掘削したが，現代埋土であり包含層や遺構面には達しなかった．出土遺物もなかった．

写真16　作業風景（西より）

写真17　トレンチ土層断面（南より）

2. 黒髪団地北地区熊本大学大学院社会文化科学研究科研究室新築工事に伴う試掘調査

＜調査期間＞

2004年５月26日

＜調査対象面積＞

7.76㎡

＜調査員＞

実施者：坂田和弘（熊本県文化課）ほか２名.

立会者：小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

県文化課による試掘調査が行われたので，埋蔵文化財調査室も立ち会った．建設地内に幅１ m，長さ3.6mほどのトレンチを２本設置し，地山まで掘削を行った．地表下90cm～１ mほどで古代遺物包含層である黒褐色土層，1.2～1.5mほどで黄褐色土層（地山層）を確認した．トレンチ２において柱穴などの遺構，それに伴い土師器などの遺物が出土した．

写真18　作業風景（南より）

写真19　トレンチ１掘削状況（西より）

図12　黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）

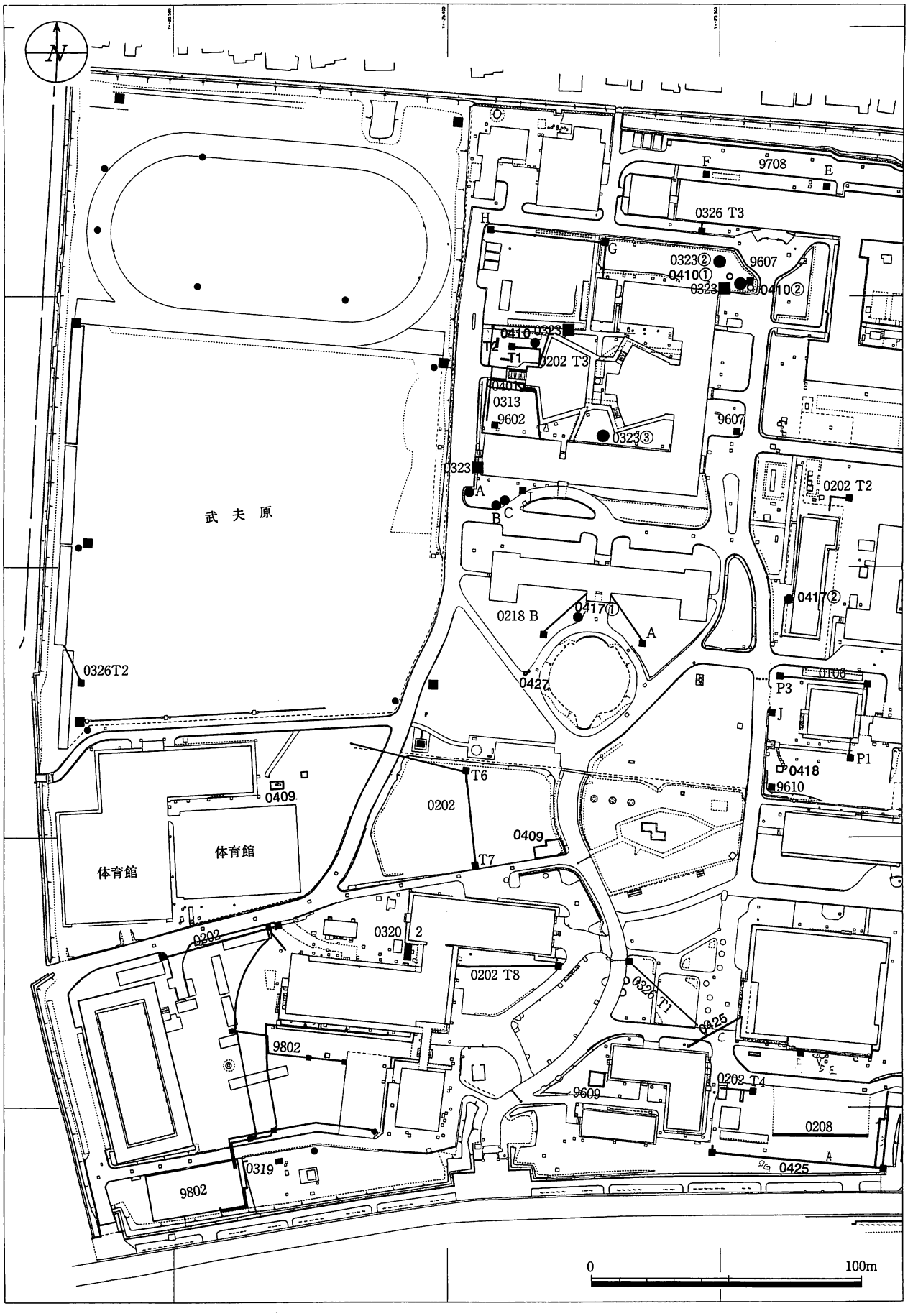


図13　黒髪北地区東半における調査地点配置図（1/2000）

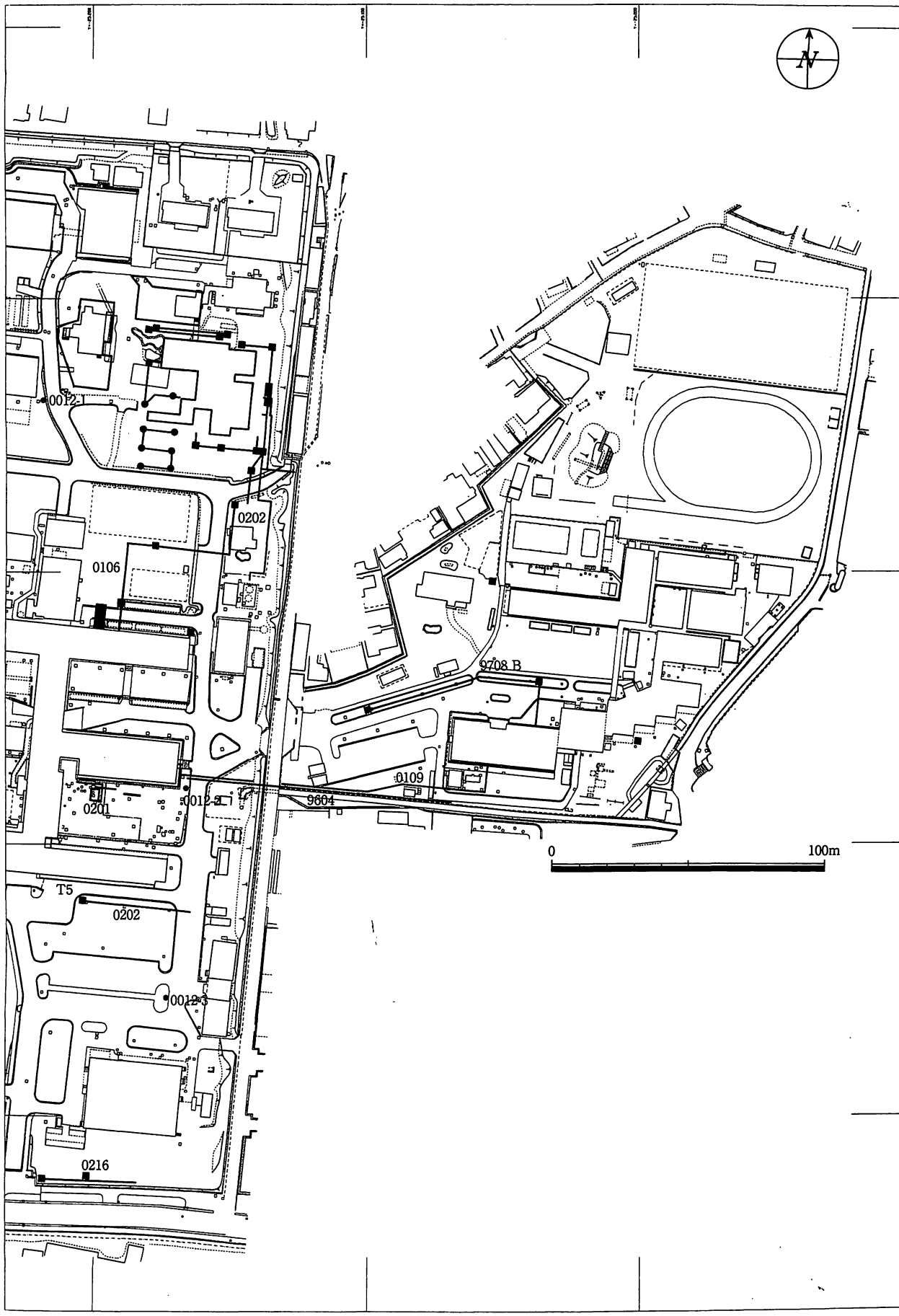


写真20　トレンチ２掘削状況（南より）

3. 黒髪団地北地区記念碑設置工事に伴う立会調査（0409）

＜調査期間＞

2004年７月29日（既存記念碑周辺掘削）
2004年８月６日（移設先掘削）
2004年８月20日（移設先周辺工事）

＜調査対象面積＞

72㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

体育館東側に設置してあったラフカディオ・ハーン記念碑の移築，及びレリーフを新設する工事に伴う立会調査である.

既存の記念碑については周囲を地表下0.7程度掘削し，基礎の深さを確認した．一部包含層に達したため，これ以下の掘削は行わなかった．記念碑の抜取作業はこれ以上の掘削を避け，クレーン等で吊り上げることになった．移築先は，0.6m程度掘削したが，包含層・遺構面には達せず，遺構・遺物は検出されなかった.

写真21　作業風景（北より）

写真22　記念碑周囲掘削状況（北より）

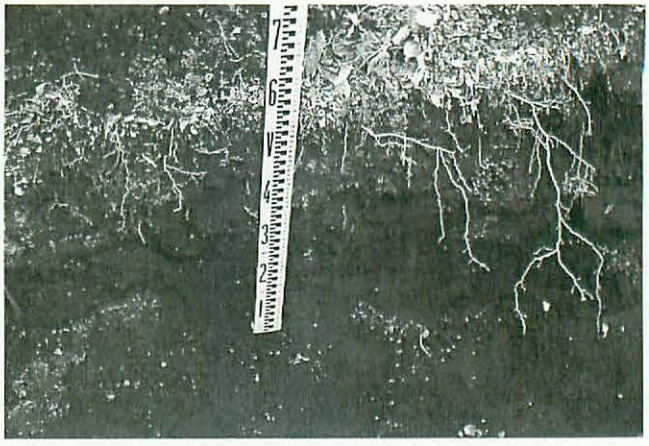


写真23　移築先掘削状況（東より）

4. 黒髪団地北地区熊本大学大学院社会文化科学研究科研究室新築工事に伴う立会調査（0410）

＜調査期間＞

2004年８月９日（樹木移植）
2004年８月10日～８月11日（本体基礎掘削）
2004年11月５日（渡廊下屋根支柱基礎掘削）
2004年11月11日（樹木移植）

＜調査対象面積＞

370㎡

＜調査員＞

小畑弘己・大坪志子.

＜調査概要・結果＞

樹木移植では，2×２ｍのトレンチを２箇所掘削した．いずれも埋土内であり，遺物・遺構の検出はなかった.

建物本体基礎部分を地表下0.7mまで掘削したが，包含層・遺構面（地山）には達しなかった.

渡り廊下の屋根設置工事では，0.5×0.5×0.6mの支柱基礎を４箇所掘削した．いずれも埋土の範囲内で，遺物・遺構の検出はなかった.

樹木移植のために２×３ｍほどのトレンチを２個，

写真24　掘削作業風景（北より）

写真25　掘削状況（北より）

写真26　基礎掘削作業風景（南西より）

写真27　掘削状況（北西より）

写真28　土層状況（東より）

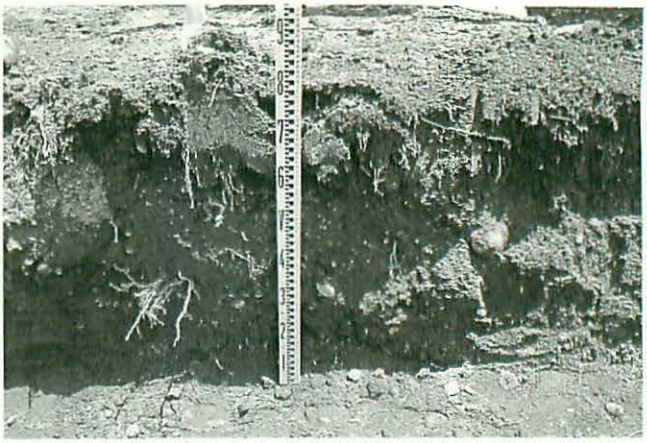


写真29　渡り廊下屋根基礎配置状況（東より）

写真30　掘削状況（西より）

地表下70cmまで掘削した．いずれも埋土内であり，遺構・遺物ともに認められなかった．

5. 黒髪団地北地区重要文化財案内板設置工事に伴う立会調査（0417）

＜調査期間＞

2004年10月12日

＜調査対象面積＞

0.5㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

五高記念館および化学実験棟の入口前に，重要文化財の案内板を設置する工事である．支柱用に直径0.2mの穴を2箇所ずつ，合計4箇所掘削した．深さ0.45m程度掘削したが埋土内であり，遺構・遺物は検出されなかった．

写真31　科学実験室前地点作業風景（南より）

写真32　掘削状況（東より）

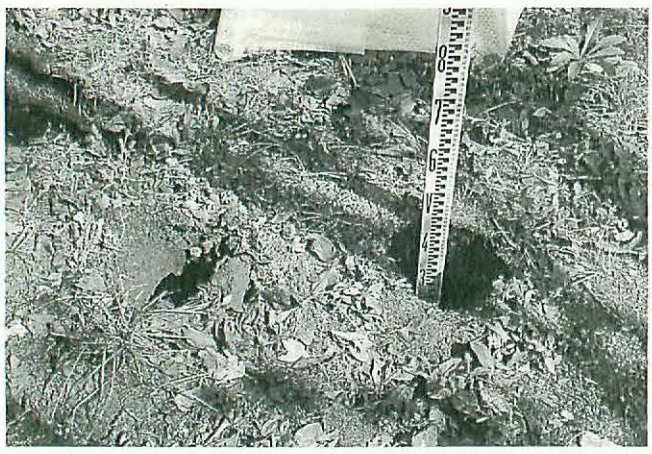
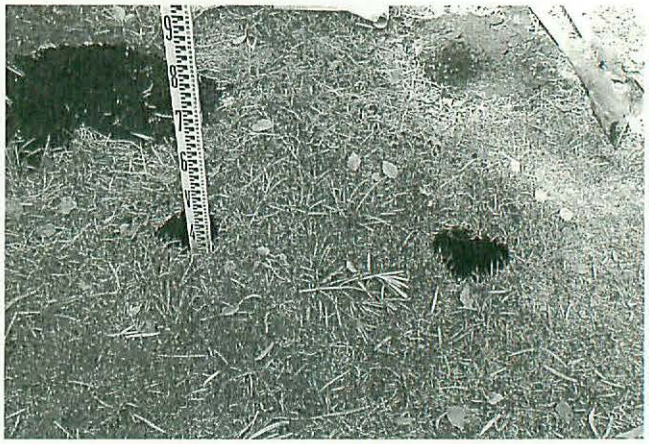


写真33　資料館前作業風景（南東より）

写真34　掘削状況（南より）



6. 黒髪団地北地区夏目漱石記念碑標柱設置工事に伴う立会調査（0418）

＜調査期間＞

2004年10月19日

＜調査対象面積＞

0.3㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

既設の木柱に換え，新たな標柱を設置する工事である．0.5×0.6mの穴を掘削し，古い標柱を除去したのち，0.6mの深さまで掘削して新しい標柱を設置した．埋土内の掘削であり，遺構・遺物は検出されなかった．

写真35　作業風景（北西より）

写真36　掘削状況（西より）

写真37　解体現場（北より）

7. 黒髪団地北地区情報ネットワーク館関連工事に伴う試掘調査

＜調査期間＞

2004年12月15日

＜調査対象面積＞

18㎡

＜調査員＞

実施者：古藤忠志（熊本市文化財課）.

立会者：小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

市文化財課による建設地内の試掘が実施されたので，立ち会った.

敷地内西端に，南北方向に３本ほどの幅１m，長さ２～３mあまりのトレンチを設定し，地山まで掘削が行われ，地表下30～50cmで地山面が現れ，その面にて柱穴や住居址と思われる遺構が検出された．それに伴い土師器や須恵器などの遺物も若干出土した.

8. 黒髪団地北地区記念館（木造）取壊工事に伴う立会調査（0423）

＜調査期間＞

2004年12月24日

＜調査対象面積＞

754㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

既存建物コンクリート基礎を撤去する際に立会を実施した．バックフォーにて引き抜き基礎掘り方以外は土を扱わないという形態の工事であり，遺構，遺物ともに検出されなかった.

写真38　基礎コンクリート一部除去後（南より）

9. 黒髪団地北地区情報ネットワーク館事前工事（配管工事）に伴う立会調査（0425）

＜調査期間＞

2005年２月１日

２月７～９日

＜調査対象面積＞

160.08㎡

＜調査員・参加者＞

檀　佳克.

岡田イツ代，森川征子，森川護，森田登.

＜調査概要・結果＞

本調査は，情報ネットワーク館建設に先立ち，樹木の移植および，既設の水道管・電気ケーブルの配線換え工事に伴う，掘削の立会調査である.

A地点では地表より深さ80cmから90cmで，古代の遺物包含層である黒褐色土層（10YR 2/2）を検出し，土師器・須恵器が出土した．工事の掘削必要深度が，地表より深さ90cmであったので，調査に切り替えた．遺物包含層を約10cm掘り下げ，古代の土師器や須恵器の破

片を数十点得た．南西端部分はハンドホール設置のため，地表面より150cm掘削を行い，黒褐色土層の下で褐色土層（10YR 4/6）を検出した．精査を行ったが，遺構は未検出である．

B地点では，水道管埋設のため地表より深さ70cmまで掘削を行ったが，遺物包含層には到達せず，工事に切り替えた．C地点では，配水管埋設のため，地表より深さ70cmまで掘削を行い，附属図書館建設時の撹乱が及んでいない西半部分より，地表より深さ60cmで黒褐色の遺物包含層上面を検出した．工事に支障がなかったため，遺構面は現状保存で掘削を完了した．遺構は未検出である．D地点とE地点は附属図書館建設時の撹乱を受けており，遺物包含層・遺構の検出はなかった．F地点とG地点では，樹木移植のため，地表より深さ60cm程掘削を行ったが，遺物包含層には到達しなかった．

写真39　A地点南東端ハンドホール部分掘削完了状況(北より)

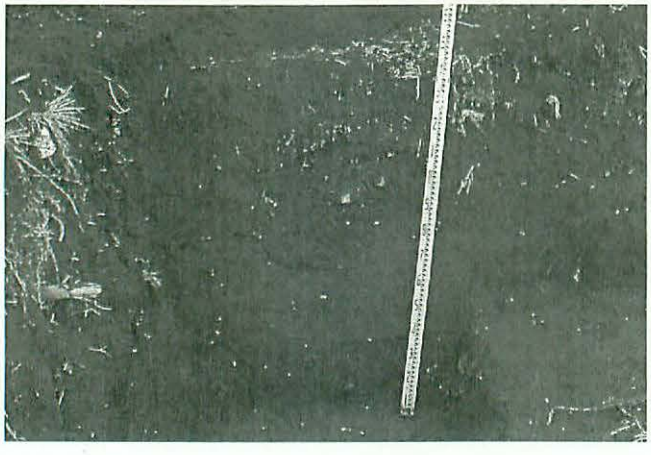


写真40　B地点掘削状況（南より）

写真41　C地点掘削・包含層検出状況（西より）

10. 黒髪団地北地区資料館前水道管漏水修理工事に伴う立会調査（0427）

＜調査期間＞

2005年2月4日

＜調査対象面積＞

1.5㎡

＜調査員＞

檀　佳克.

＜調査概要・結果＞

2月3日に五高記念館前で，水道管の老朽による漏水が発見され，その緊急修理のため，立会のもと掘削を行った．道路の舗装とバラスを外した段階で，水道管配管時の溝の掘込みを検出し，その掘込みの範囲内で掘削を行った．その後，漏水部分を検出し，老朽化した五高記念館への配水管を切断し，栓をして工事は終了した．今回は撹乱部分の掘削のみであり，本工事による遺跡の破壊は無かった．

写真42　掘削完了状況（北より）

Ⅲ—2　黒髪南地区　（図14参照）

1. 黒髪団地南地区理学部駐輪場取設工事に伴う試掘調査

＜調査期間＞

2004年８月23日

＜調査対象面積＞

11㎡

＜調査員＞

実施者：山下宗親（熊本市文化財課）

立会者：小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

建設地内において市文化財課によって試掘調査が実施されたので，立会を行った.

敷地内に幅１ｍ，長さ３ｍほどのトレンチ３本が入れられ，ほぼ現在の道路面と同じレベルで古代包含層である黒色土が現れ，それ以下30cmの深さで柱穴などの遺構を伴う黄褐色土層（地山面）が現れた．これらに伴い須恵器・土師器などの遺物も出土した.

2. 黒髪団地南地区工学部台風被害による倒木起しに伴う立会調査（0414）

＜調査期間＞

2004年９月16日

＜調査対象面積＞

４㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

工学部・理学部敷地内において台風による倒木の抜根，掘り起こし作業に伴い立会調査を実施した．工学部資料館西側，理学部２号館前の樹木の立直しに際し，立会を行ったが，掘削深度が地表下30cmほどであり，表土および埋土層内に納まり，遺物・遺構は検出されなかった．また，ほかの地点においては，樹木の引き起こし作業のみで，掘削を伴わないため，慎重に工事を行うよう指導した.

写真43　掘削状況（南より）

3. 黒髪団地南地区重要文化財案内板設置に伴う立会調査（0417）

＜調査期間＞

2004年10月12日

＜調査対象面積＞

0.5㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

重要文化財に指定されている工学部資料館に関する案内板を設置するための工事である．資料館の東側および南側入り口付近の２箇所に設置した．直径20cmの支柱用の穴を２箇所ずつ，計４箇所掘削した．地表下0.4～0.65m掘削したが，埋土内で遺構・遺物は検出されなかった.

写真44　資料館東側地点作業風景（南より）

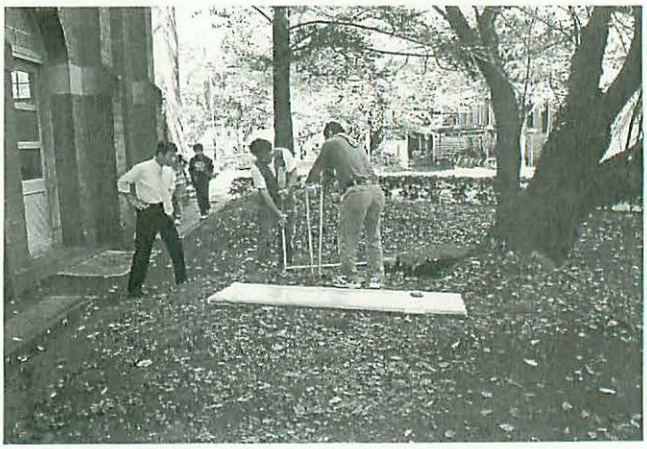
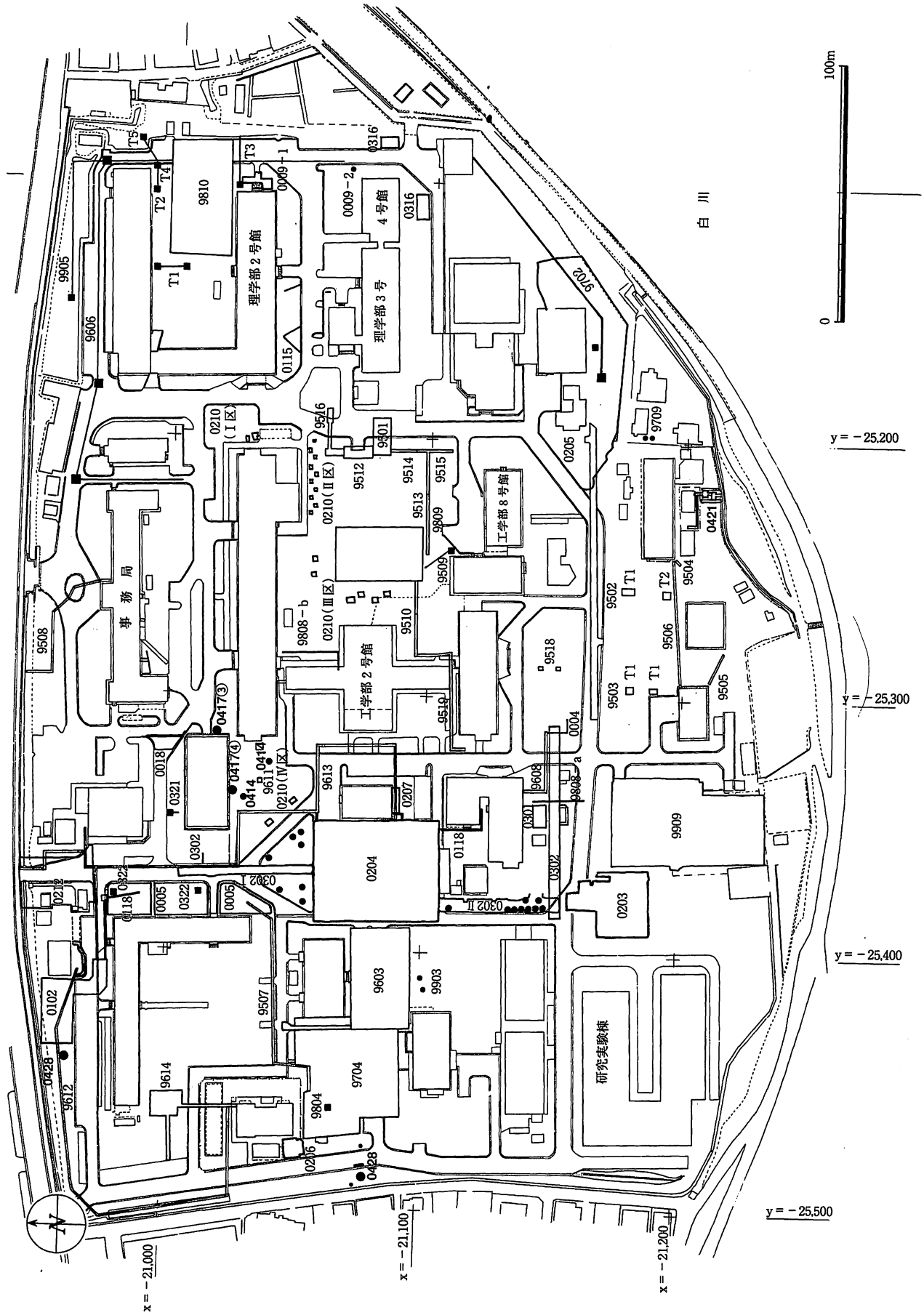


写真45　掘削状況（東南より）

図14　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）



4. 黒髪団地南地区さく井設備工事に伴う立会調査（0421）

＜調査期間＞

2004年11月29日

＜調査対象面積＞

43㎡

＜調査員＞

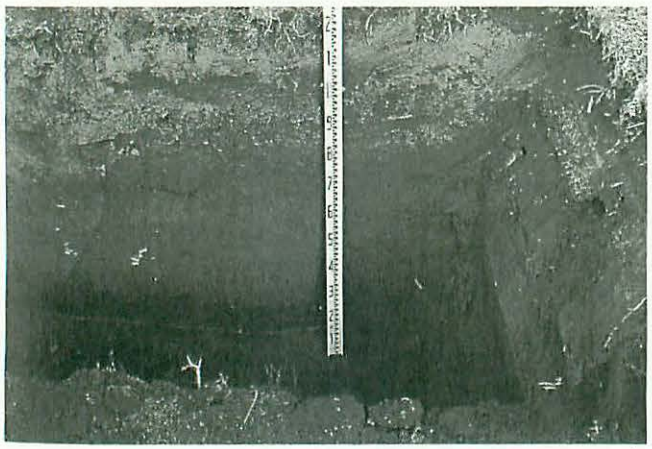
小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

最も深い掘削部分（井戸ピット部）で立会調査を実施した．地表下1.2mほど下げても，近現代の堆積層であり，工事に支障はないものと判断した．遺構・遺物ともに検出されなかった．他の工事区については，慎重に工事を進めるよう指導した．

写真46　トレンチ掘削状況（東より）

写真47　トレンチ土層（南より）



5. 黒髪団地南地区樹木移植に伴う立会調査（0428）

＜調査期間＞

2005年２月21日～22日

＜調査対象面積＞

19㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

移植元で２箇所，移植先で１箇所の掘削が行われた．最も深いところで地表下1.3mであったが，いずれも埋土内であり，遺構・遺物ともに検出していない．

写真48　掘削状況（南より）

写真49　トレンチ掘削状況（南より）

Ⅲ—3　本荘北地区　（図2参照）

1. 本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事に伴う試掘調査

＜調査期間＞

2004年4月9日

＜調査対象面積＞

10.44㎡

＜調査員＞

実施者：坂田和弘（熊本県文化課）

立会者：小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

診療棟建設予定地内において県文化課により試掘調査が実施されたので，立会を行った.

試掘トレンチは，建設予定地の北側，東側および南東側に幅1m，長さ3m余りで設定された．東側のトレンチ2において，地表下260㎝で土師器小片を含むやや暗色の粘質土が現れ，溝（水路）の底の可能性があった.

写真50　調査風景（西より）

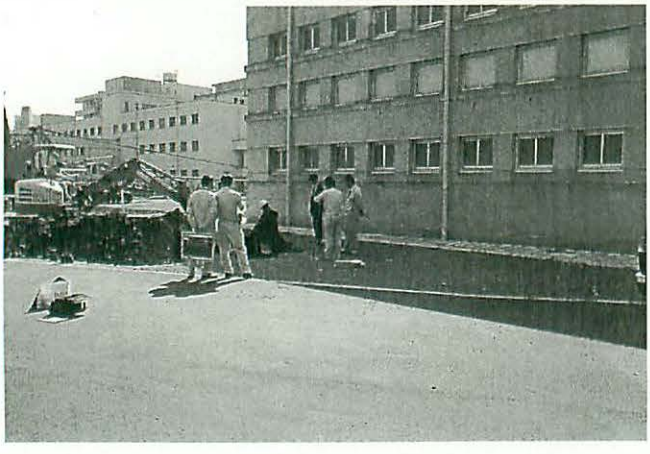


写真51　トレンチ1土層（西より）

また，南東角のトレンチ3では地表下1.7mまで近代の埋土で，地表下3.1mほどでやはり小河川か水路と思われるものの底が現れた．この部分より古代の土師器類を含む若干の遺物が検出された.

写真52　トレンチ2土層（西より）

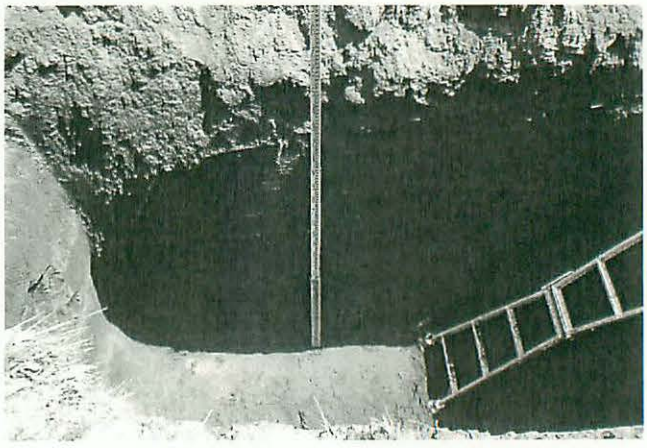
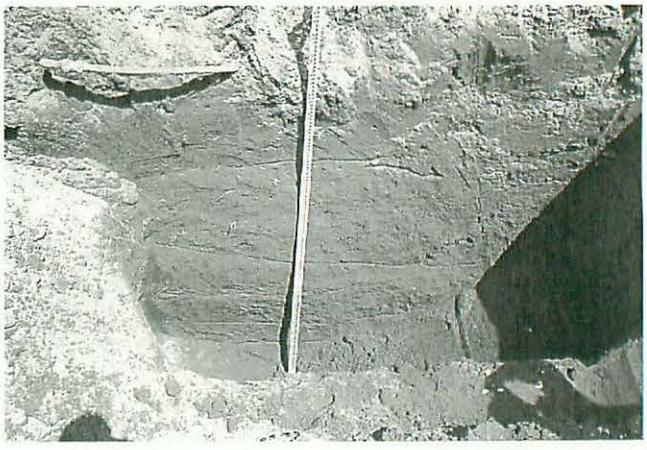


写真53　トレンチ3土層（西より）



2. 本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事に伴う立会調査（0403）

＜調査期間＞

2004年5月14日

2004年10月14日

＜調査対象面積＞

150㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

中央診療棟本体部分の南側及び東側における，配管工事に伴う立会調査である．東西の工事区間では，地表下1.0mの深さで掘削したが，包含層・遺構面ともに検出されなかった．南北の調査区間では地表下1.5mから1.6mで遺構面（地山）が検出された．周辺の土層の観

察より，当該箇所は撹乱を受けており，本来は地表下0.9m程度で包含層が検出されることがわかった．遺構は検出されなかった．遺物は陶磁器片と古代の土師器片が数点出土した．現在建設中の中央診療棟工事に関連して，シートパイル設置部分の溝掘をおこなった．深さは0.5m程度で，埋土内の掘削であり遺構・遺物は検出してない．

写真54　作業風景（西より）

写真55　東西配管部掘削状況（西より）

写真56　南北配管部掘削状況（北より）

先の南北工事区間の東側に階段を設置する工事部分では，地表下0.8m程度まで掘削したが，埋土内で包含層や遺構面には達しなかった．包含層まであと5～10cm程度だった．遺構・遺物は検出されなかった．

写真57　掘削状況（南東より）

3. 本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備工事に伴う試掘調査

＜調査期間＞

2004年6月28日

＜調査対象面積＞

10㎡

＜調査員＞

実施者：山下宗親（熊本市文化財課）

立会者：小畑弘己・大坪志子．

＜調査概要・結果＞

熊本大学附属病院地区における基幹・環境整備事業に伴い，試掘調査が熊本市教育委員会文化財課の山下宗親氏によって実施され，立会った．トレンチを2箇所に設定して調査を行った．1トレンチでは地表下1.7mで包含層を確認し，中位程で土師器底部，下部では縄文土器底部が出土した．地表下2.1mで遺構面（地山）を検出し，土壙状の遺構を確認した．2トレンチにおいても地表下2.3～2.4m遺構面（地山）を検出，溝或いは住居状の遺構を確認した．

写真58　作業風景（北西より）

写真59　トレンチ１掘削状況（北東より）

写真60　トレンチ２掘削状況（北西より）

4. 本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備（ポンプ室・RI 実験室取壊等）工事に伴う立会調査（0411）

＜調査期間＞

2004年８月17～19日・23日（ガス管切替）
2004年９月３日（水道プラグ止）
2004年９月14日～22日（既存建物解体）
2005年１月27日～（調査継続中）

＜調査対象面積＞

420㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本体工事に支障となるガス管の切替え工事を行った．既存のガス管の位置と深さを確認し，地上に露出して再配管する工事である．切替連絡部分では1.2～1.8m掘削したが，包含層・遺構面（地山）は検出されなかった．

解体されるポンプ室に繋がる水道管を止める工事では，受水槽脇を掘削したが，受水槽の掘方内で，遺構・遺物の検出はなかった．

既存建物解体では，RI 実験棟・プレハブの基礎・ポンプ室４箇所・受水槽・貯留槽・稀釈槽の解体を行った．地上建物の基礎については，掘削深度が浅く包含層・遺構面（地山）には達しなかった．地下に埋設されていた各種の水槽等は周囲を掘削せず，破砕・抜取作業で対応した．遺構・遺物の検出はなかった．

現在継続中の立会調査では，掘削深度が包含層・遺構面に達するため，発掘調査に切替て対応している．これまでに，古代の溝数条と，住居址３軒が確認されている．

写真61　作業風景（東より）

写真62　既存ガス管掘削状況（北より）

写真63　既存ガス管掘削状況（東より）

写真64　解体作業風景（南より）

写真65　受水槽解体状況（南より）

写真66　稀釈槽解体・撤去状況（西より）

5. 本荘団地北地区附属病院都市ガス漏配管修理工事に伴う立会調査（0412）

＜調査期間＞

2004年 9 月16日

＜調査対象面積＞

5.7㎡

＜調査員＞

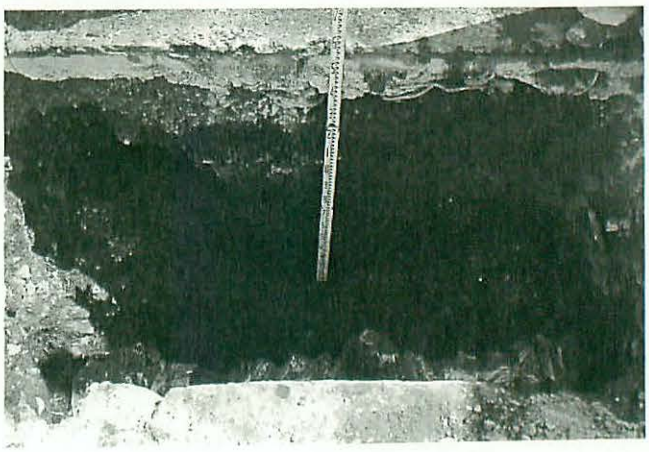
大坪志子.

＜調査概要・結果＞

当該箇所周辺を地表下1.55～2.0m まで掘削したが，既設管の掘方内で，遺構・遺物の検出はなかった.

写真67　作業風景（南西より）

写真68　掘削状況（南より）



6. 本荘団地北地区附属病院台風被害による倒木起しに伴う立会調査（0416－１）

＜調査期間＞

2004年９月21日

＜調査対象面積＞

８㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

台風被害による倒木の立て直し作業に際して立会を実施した．いずれも掘削深度が地表面から50～30cmほどで，表土・埋土層内であり，遺構・遺物ともに検出されなかった.

写真69　掘削状況（南より）

7. 本荘団地北地区附属病院福利厚生施設引込配線工事に伴う立会調査（0419）

＜調査期間＞

2004年10月22日

＜調査対象面積＞

2.23㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

台風により，福利厚生施設の電柱が傾いたため，新設および立て直す工事である.

幼稚園内に新たに電柱を設置した．電柱設置部分は直径0.6mの穴をドリルで掘削したため，遺構は確認できなかった．支柱を埋設するため周囲を1.35×0.35mの範囲で深さ0.6m掘削したが，埋土内で遺構・遺物は検出されなかった.

看護師寮前・駐輪場そばの電柱は同じ場所で新しい電柱を設置した．その際，支柱を埋設するため周囲を1.25×1.0m，深さ0.6m掘削した．埋土内で遺構・遺物の検出はなかった.

写真70　作業風景（南東より）

写真71　掘削状況（南より）

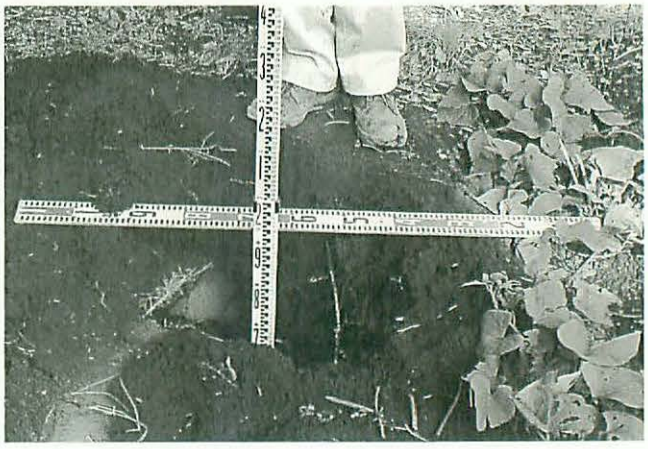
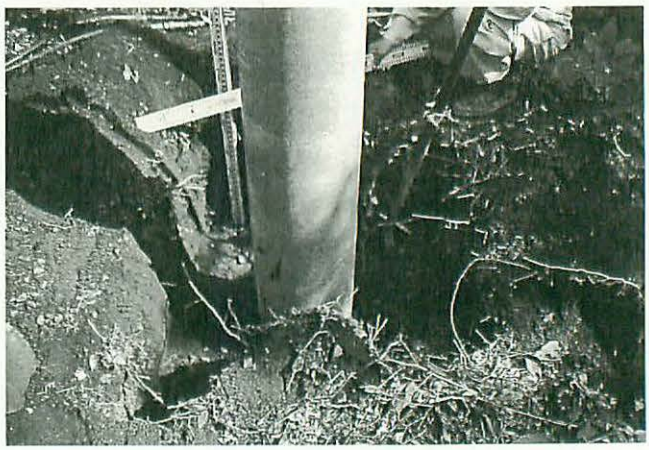


写真72　新設電柱・周辺掘削状況（北西より）



8. 本荘団地北地区中央診療棟（軸）工事に伴う立会調査（0422）

＜調査期間＞

2004年12月６日

＜調査対象面積＞

66.4㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

掘削範囲内は地表下2.3mまですべて撹乱を受けており，遺構・遺物ともに検出されなかった.

写真73　作業風景（北より）

写真74　掘削後の状況（南より）

9. 本荘団地北地区ボンベ庫取設工事に伴う立会調査（0424）

＜調査期間＞

2005年１月11日

＜調査対象面積＞

14.5㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

掘削部は北側に隣接する外来臨床研究棟の地下室掘削のためすでに掘られた可能性のある部分であった．掘削すると埋設管なども多く，部分的に地表下70cmまで掘削し，土層を確認したところ，依然埋土層の範囲内であった．遺構・遺物ともに検出されなかった.

写真75　作業風景（南東より）

写真76　掘削後の状況（南西より）

10. 本荘団地北地区防火水槽取設工事に伴う試掘・発掘調査（0426）

＜調査期間＞

2005年２月４日

2005年２月８～９日

＜調査対象面積＞

84㎡

＜調査員・参加者＞

小畑弘己.

押方富江・小細工洋子・林田恵子・番山明子・福田久美子・松本和徳・宮村邦子.

＜調査概要・結果＞

２月４日に試掘を行い，地表下1.5mで溝状の遺構を確認した．2月８・９日に本調査に切り替え，発掘を実

施したところ，幅３ｍで北東～南西方向の18世紀以降と思われる溝を検出した．溝内からは磁器や陶器片のほか，馬の下顎骨や銅銭（北宋銭）なども出土した．

写真77　調査区全景（北より）

写真78　調査区全景（北西より）

写真79　調査区全景（西より）

写真80　第２号溝完掘状況（南西より）

写真81　第２号溝土層（南西より）

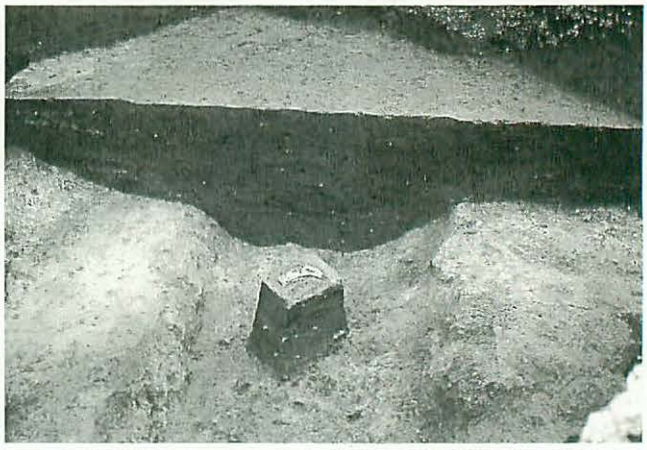


写真82　第２号溝馬下顎骨出土状況（南より）

Ⅲ—4　本荘南地区　（図15参照）

1. 本荘団地中地区医学部台風被害による倒木起しに伴う立会調査（0416－2）

＜調査期間＞

2004年9月22日

＜調査対象面積＞

1.5㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

台風により傾いた木を起すために，0.7×0.7×0.6m程度の掘削を3箇所行った．いずれも埋土内で包含層・遺構面（地山）には達しなかった．遺物・遺構の検出もなかった.

図15　本荘南地区における調査地点配置図（1/2000）

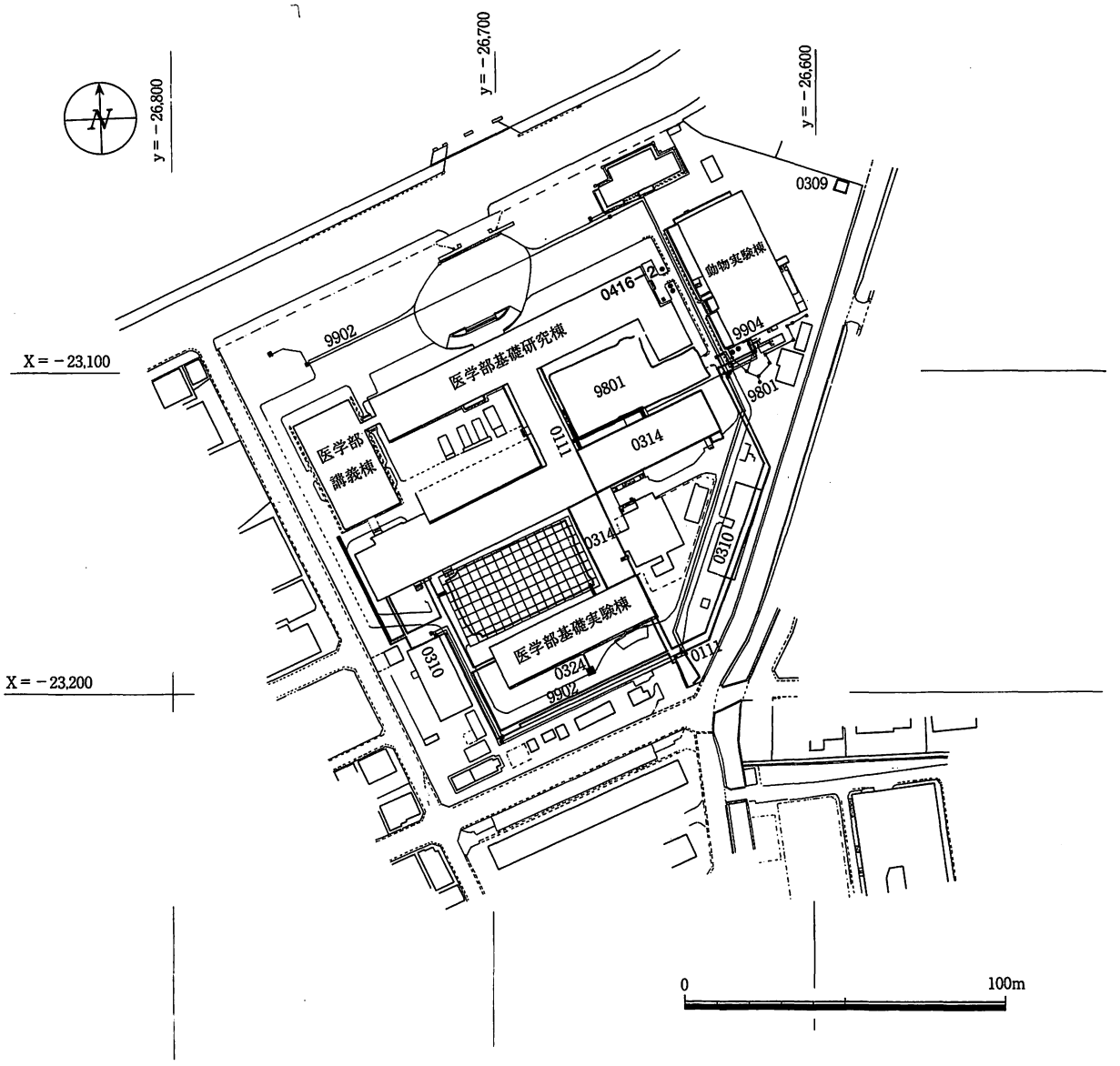


写真83　作業風景（南より）

写真84　掘削状況（南より）

Ⅲ—5　京町地区　（図16参照）

1. 京町地区附属中学校台風被害による倒木起しに伴う立会調査（0413）

＜調査期間＞

2004年９月16日

＜調査対象面積＞

８㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

プール横のキンモクセイの倒木を立て直すため，50cmほど掘削を行ったので，その際立会を実施した．掘削深度では依然埋土層内であり，遺構・遺物ともに検出されなかった．他の樹木は引き起こしのみで，掘削を行わないため，慎重に工事を進めるように指導した．

図16　京町地区における調査地点配置図（1/2000）

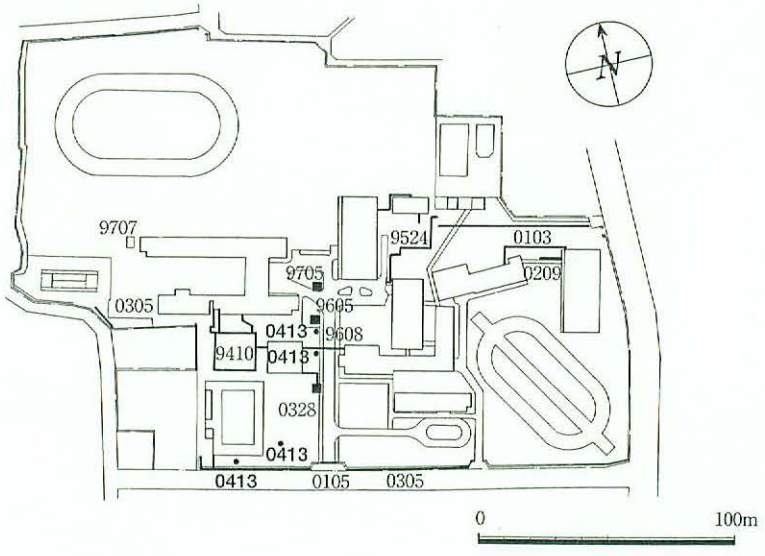


写真85　調査地点近景（東より）

写真86　掘削状況（南より）

Ⅲ—6　薬学部地区　（図17参照）

1. 薬学部地区植物園棚支柱ほか設置に伴う立会調査（0404）

＜調査期間＞

2004年５月21日

＜調査対象面積＞

3.3㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

薬草園に棚と看板を設置するための工事である．支柱36本が設置される範囲内で６箇所，トレンチを設定して掘削した．予定の掘削深度（地表下0.6m）までは現代埋土であり，包含層・遺構面には達しなかった．

看板設置においては，0.6×0.5mの範囲２箇所を深さ0.8mまで掘削した．包含層・遺構面には達しなかった．遺物も出土しなかった．

写真87　作業風景（南より）

写真88　トレンチ５掘削状況（南より）

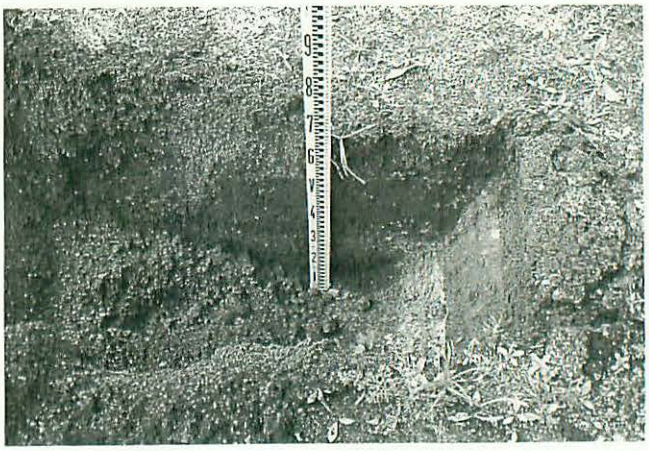
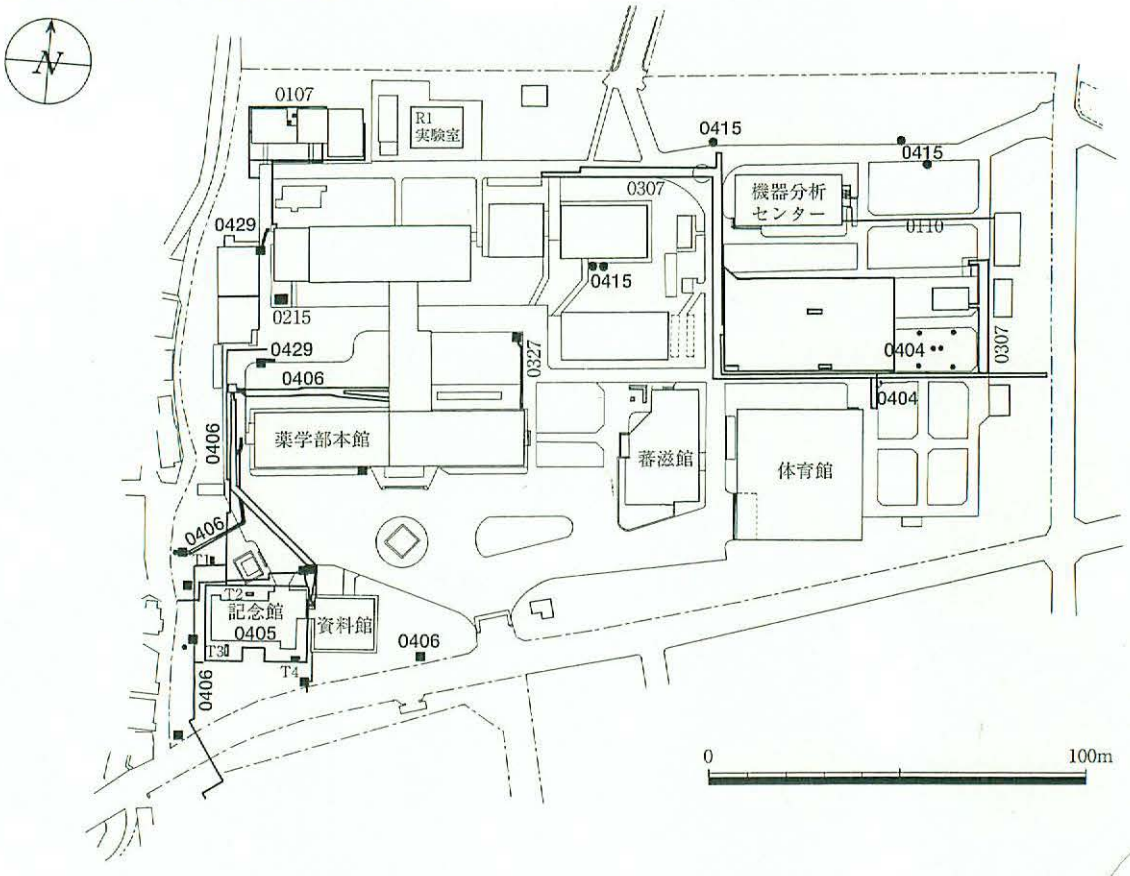


写真89　看板設置部分掘削状況（南より）

図17　薬学部地区における調査地点配置図（1/2000）



2. 薬学部地区宮本記念館新営機械設備及びその他工事に伴う立会調査（0405）

＜調査期間＞

2004年6月25日

＜調査対象面積＞

68.48㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

宮本記念館本体の基礎部分掘削のための立会調査である．基礎設置状況にあわせて，建設予定地の四隅及び中央にグリッドを設定した．地表下1.2～1.3mで遺構面（地山）を検出したが，遺構は検出されなかった．南東隅は撹乱のため地表下2.4mまで掘削したが遺構面には達しなかった．本体予定地の中央部および北西部分で水田の床土のような粘性の高い層を検出したが，明確な遺構はなかった．出土遺物もなかった．

写真90　作業風景（北より）

写真91　グリッド1掘削状況（北より）

写真92　グリッド５掘削状況（西より）

写真93　基礎撤去作業風景（西より）

写真94　掘削状況（南より）

写真95　ハンドホール部分掘削状況（東より）

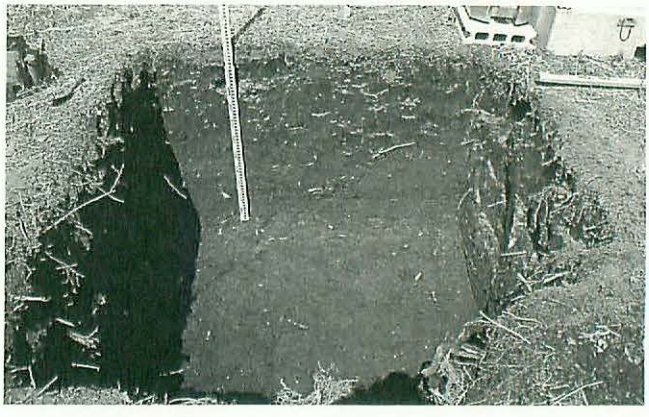


写真96　電気工事作業風景（北東より）

3. 薬学部地区薬学部宮本記念館（仮称）建設に伴う立会調査（0406）

＜調査期間＞

2004年５月24日（旧建物基礎撤去・樹木撤去）
2004年５月26日（樹木撤去・本体部一次掘削）
2004年６月４日（電気配線）
2004年10月26日～10月28日（電気配線・給水管）
2004年11月12日（給水管・ガス管）
2004年11月29日（樹木移植）

＜調査対象面積＞

1332.4㎡

＜調査員＞

小畑弘己・大坪志子.

＜調査概要・結果＞

薬学部記念館（仮称）建設工事に伴う立会い工事である．旧建物の基礎撤去工事は，地表下0.4mまでの掘削で包含層・遺構面には達しなかった．また樹木を２本撤去したが，これも地表下0.4～0.5mの掘削で包含層・遺構面には達しなかった．樹木２本の撤去とガス配管工事では，樹木については0.5m程度，ガス配管部分については0.7mまで掘削したが，包含層・遺構面には達しなかった．ともに遺構・遺物は検出されなかった．本体部の一次掘削では遺構面に達したが，遺構は検出されなかった．電気配線では，ハンドホール部分を地表下1.15mまで下げ，水田の床土のような土層を確認したが包含層・遺構面は検出されなかった．配管部分はこれより浅く，埋土内の工事で，遺構・遺物は検出されなかった．

10月以降，ガス・給排水の配管工事を随時行った．電気のハンドホールや給水管の桝を設置した部分では地表下1.2m～1.5mまで掘削し，包含層及び遺構面（地山）を検出したが，遺構・遺物は検出されなかった．

写真97　ハンドホール部分掘削状況（北より）

写真98　給水管部分掘削状況（西より）

写真99　樹木移植先作業風景（北より）

写真100　樹木移植先掘削状況（南より）

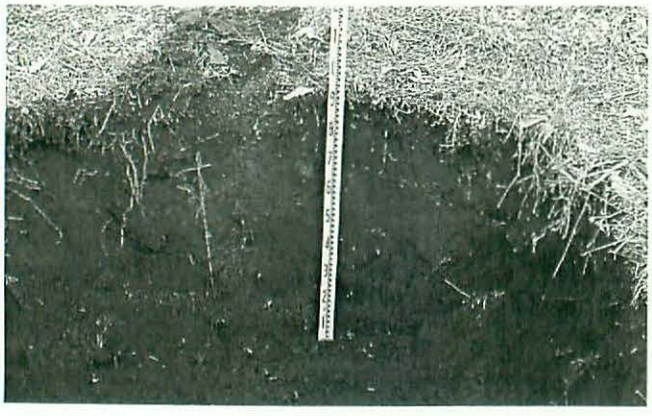


写真101　樹木移植先作業風景（南より）

写真102　樹木移植先掘削状況（西より）

4. 薬学部地区台風被害による倒木起しに伴う立会調査（0415）

＜調査期間＞

2004年９月21日

＜調査対象面積＞

10㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

台風被害による倒木の立て直し作業に際して立会を実施した．いずれも掘削深度が地表面から50～30cmほどで，表土・埋土層内であり，遺構・遺物ともに検出されなかった.

写真103　作業風景（南より）

5. 薬学部地区テニスコート整備工事に伴う立会調査（0420）

＜調査期間＞

2004年11月16日

＜調査対象面積＞

695㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

テニスコートネット支柱（深さ1.0m），および樹木撤去部分にトレンチ２個を掘削し，遺構・遺物の状況を確認したところ，周辺の古代遺物包含層に相当する黒褐色土層および，地山層に相当する黄褐色土層は確認できたが，遺物・遺構ともに検出されなかった．支柱部分で黒褐色土層上面が地表下60cm，南端の樹木撤去部分で同層上面が1.1m で確認できた．よって，北→南へとゆるやかな地形の傾斜があることが確認できた．

写真104　支柱部トレンチ土層（南より）

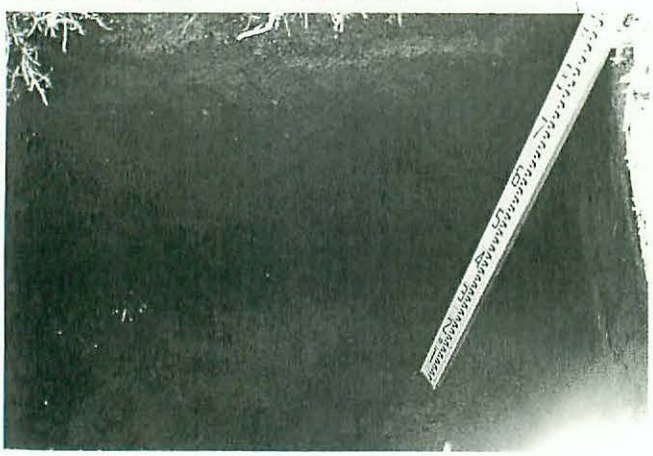
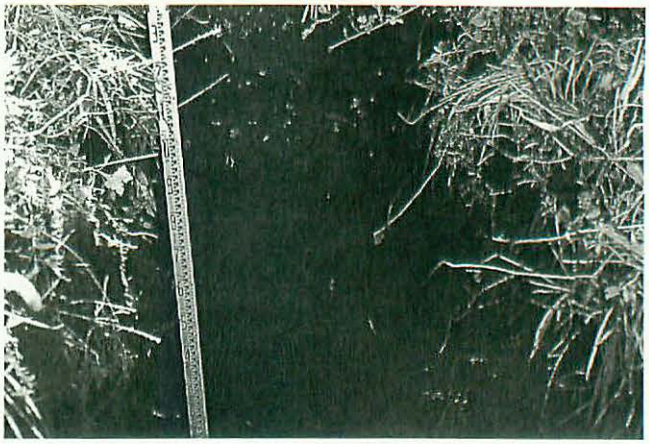


写真105　樹木抜根部トレンチ土層（北より）



6. 薬学部地区雨水設備工事に伴う立会調査（0429）

＜調査期間＞

2005年２月21日

＜調査対象面積＞

4.25㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

路面の排水のために，桝を設置し既設の桝に繋げる工事である．0.35×0.35m程度の桝を２箇所に設置し，既設桝に繋ぐ配管部分を掘削した．最も深い部分で，0.45m，配管部分はアスファルト・バラスを除去した深さ（約0.3m）で，埋土内であった．遺物・遺構の検出はなかった．

Ⅲ―7　宇留毛地区

1. 宇留毛地区小磧宿舎揚水管漏水配管改修工事に伴う立会調査（0408）

＜調査期間＞

2004年７月26日

＜調査対象面積＞

26.2㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

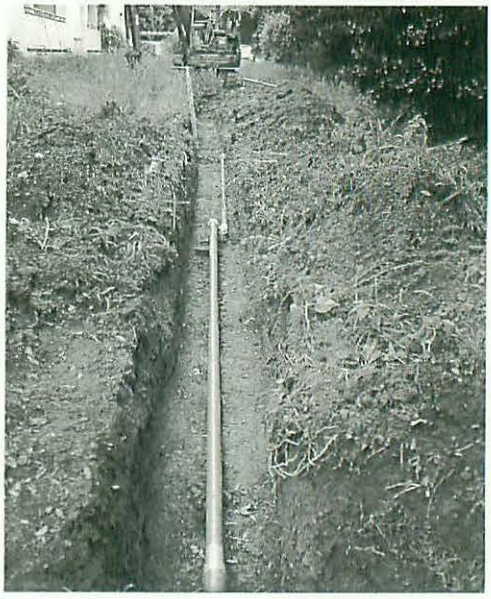
宇留毛地区小磧宿舎の揚水配管漏水工事に伴い，立会調査を行った．国際交流会館Ｂ棟裏から１号宿舎までの配管である．このうち１号宿舎前にはと２号宿舎がある下段までの斜面，道路，その下段までの斜面を掘削した．

部分的には地表下0.7～0.8m，その他はおおよそ0.6m，幅0.5m で掘削を行ったが，いずれも埋土の範囲内で遺構・遺物の検出はなかった.

写真106　作業風景（東より）

写真107　道路横断部分掘削状況（南より）

写真108　1号宿舎前掘削状況（南より）



跋文

平成16年度熊本大学埋蔵文化財調査室が行った調査は、発掘調査３件、立会調査29件（２月末現在)、試掘調査６件であった。このうち本荘南地区（医学部）発生医学研究センター建設に伴う発掘調査はＰＦＩ制度によるもので、形式上「外部委託」であるために、整理報告は別途おこなう。本荘北地区（附属病院）における基幹・環境整備に伴う発掘調査では古代と古墳時代の集落跡と溝が多数検出され、本荘地区は古墳時代から奈良・平安時代にかけて大規模な集落が存在していたことが明らかとなった。古代においては本荘北地区はで河岸後背地に形成された高まりの上に古代の畑跡が検出され、一方本荘南地区では水田が形成されていたことが判明し、場所による土地利用の違いが指摘できることは注目すべきである。平成17年２月からは黒髪北地区で情報ネットワーク館建設に伴う調査が現在進行中であるが、古墳時代の集落跡が検出されつつあり、養蚕の渡し、あるいは養蚕駅周辺で営まれた家屋群と見られる。

本年度も立会調査を多く行ったが、工事に関する図面と実際の工事場所が異なる手違いがままあり、調査時に混乱を招き、ひいてはその都度教育委員会に提出する書類の変更などの無駄な事務量が増加している。ケアレスミスも含めてもう少しチェック体制を見直してほしいというのが埋蔵文化財調査室からの御願いである。

大学が法人化して予算システムが変更になったことから、調査概略報告を出版するための資金が不足する可能性があるとされる。文化財保護法による「記録保存」は調査から半年以内に遺跡調査の概略報告を提出することが義務付けられており、その後正式な発掘調査報告書を刊行して、世間に遺跡の内容とそのもつ歴史的な意味を公表することで、「記録保存＝発掘調査」の業務がはじめて完了するのであり、制度の見直しと改善が必須である。

熊本大学埋蔵文化財室長
文学部教授　甲　元　眞　之

Summary

In 1985,Kumamoto University planed reconstruction of campus. But it was known that some of campus is designated as buried cultural assets zone. In the fiscal year 1994, Kumamoto University formed the Archaeological investigation committee and the Archaeological Operation Office in haste, and has been excavating the campus sites when the superannuated school buildings were rebuilt since then. We have two main campus sites at another areas. The one is the Kurokami area where is constituted of faculty of science and faculty of Engineering (south area) , faculty of Education, faculty of Laws, and faculty of Letters(north area) ,and locates in Kurokamimachi site. The site is located at the foot of Mt.Tatuta(above 151.6m)on a low terrace(above sea level 18～25m)formed by the Shirakawa River. The site are regarded as an ancient station "Kokai". The other one is the Honjo area where is constituted of School of medicine, college of Medical Science(south area), and Kumamoto University hospital(north area),and belong to Honjo site. The site located on a low terrace(above sea level 12～13m)formed by Shirakawa River, similar to Kurokamimachi site. It is 2km from Kurokamimati site to Honjo site in a straight line. In the circumstance of Honjo site, there are large ancient settlement sites like Oe site and Shinyashiki site.

The number of investigations in the current year is the following: 3excavations, 28presence investigations and 6trial excavation as of February28. The main results are the following.

At 0402excavation spot in the Honjo site, we excavated the site before the construction of the institute of Molecular Embryology and Genetics. The excavated area is about 1,200square meters. We excavated structural remain and relics of Kohun period and ancient times.

At 0411excavation spot in the Honjo site, we excavated the site before the construction of the well plant. The excavated area is about 551square meters. The structural remains level of the site is deep point under grand, so it is not destroyed by modern construction seriously.

The result of excavation, we found 5 ditches of early modern period and some post holes, 3 pit dwellings, 4 embedded-pillar buildings, a field, 3 ditches and some post holes of ancient times, 3 pit dwellings of Kohun period. We got potteries of these times, fragments of Jomon pottery, and some obsidian as tip or flak and some potteries of Jomon period.

And we found many kind of pottery and an iron knife, we think maybe they are ritual paraphernalia. The knife was broke and the half part that has a tip of a sword blade was laid in the opposite direction.

The fragments of Jomon pottery had no obvious structural remains, but they gatherded like have a structural remain. The main times of the site that we have excavated around this excavation point is Kohun period and ancient times, but we must have a care of relic and structural remain of Jomon and Yayoi period from now on.

This is the first full-scale excavation that we do on the south side of the culvert flows across the Honjo north area. We got new facts that the extend of the settlement of Honjo site spreads to the south side of the culvert at this excavation, and we knew this settlement spreads to the east too at the excavation that we did around the 0411point for every kind of construction work in relation to the construction of the well plant.

At these excavations in current year, we got new splendid results as above. We got new facts at every excavation, but there are many ambiguous points about a scale and character of the site, too.

So we will do best to make it obvious the whole aspect of these sites from now on, too.

구마모토 대학은 건물이 낡아서 1985 년 부터 재건축 계획을 세우고 있었으나, 대학이 있는 구내지역이 유적 포함지로 지정되어 있다는 사실을 알게 되었다. 그 때문에 재건설을 하기 전에 매장문화재의 발굴조사를 위해 급거 조사위원회와 조사실을 편성해, 1994 년 부터 조사를 해 왔다.

구내지역의 유적은 크게 두 지구로 나누어진다. 하나는 공학부·이학부(남지구), 교육학부·법학부·문학부(북지구)가 자리한 쿠로카미 (黒髪) 캠퍼스로, 쿠로카미마치(黒髪町) 유적의 일부에 해당한다. 이 유적은 타쓰타산(立田山)(표고 151.6m)기슭의 저위하안단구(표고 18～25m)상에 위치하며, 고대 고카이(蚕養)의 역전으로 추정되고 있다. 또 하나는 의학부·의료단기대학(남지구), 대학부속병원(북지구)이 자리한 혼조(本荘) 캠퍼스이다. 이 지구는 혼조(本庄)유적의 일부이며, 쿠로카미마치유적과 마찬가지로 시라카와(白川) 강의 저위안단구(표고 12～13m)상에 위치한다. 혼조유적은 쿠로카미마치유적으로부터 직선거리로 2km 쯤 떨어져 있다. 이 유적과 근접한 곳에 오오에 (大江) 유적과 신야시키(新屋敷)유적 등 큰 고대 취락 유적이 있다.

2004 년도에 실시한 조사 건수는, 발굴 조사 3 건, 입회조사 28 건 (2월말일현재) , 시굴 조사 6 건이었다. 주된 조사의 결과는 다음과 같다.

혼조(本庄)유적 0402 지점은, 발생의학연구센터을 건설하기 전에 발굴 조사를 행했다. 조사 면적은 1,200평방미터였다. 고대나 고분(古墳)시대의 유구나 유물이 검출되었다.

혼조(本庄)유적 0411 지점은, 우물설비를건설하기 전에 발굴 조사를 행했다. 조사 면적은 551 평방미터였다. 이 유적 유구검출면은 다른 지점 보다 깊고, 현대의 건축물에 의한 파괴는 적었다.

조사의 결과, 근대 도랑 5 조와 기둥구멍, 고대 수혈주거지 3기와 굴립주건물4기, 밭, 도랑 3조, 기둥구멍, 그리고 고분(古墳)시대의 수혈주거지 3 기가 검출되었다. 유물로는, 각 시대의 토기, 죠몬(繩文)시대의 토기와 흑요석제 박편 및 부스러기들이 있다.

또한, 명확한 유구는 확인하지 못하였으나, 제사(祭祀)를 지낸 것 같은 토기나 철제품이 출도되었다. 손칼은 반으로 부러뜨려, 그 부러뜨린 칼의 칼끝을 경부 쪽에 돌려 놓아두고 있었다.

또한, 죠몬(繩文) 토기가 위치적로 집중하여 출도되었다. 이 조사 지점의 주변은, 지금까지 주로 고분 시대와 고대의 유적이 조사되어 왔으나, 앞으로는 야요이(彌生)시대나 죠몬(繩文)시대의 유구나 유물에도 주의하지 않으면 안될 것이다.

혼조(本荘)북지구에 있어서, 이 지구를 동서로 흐르는 암거 (暗渠) 의 남쪽을 본격적으로 발굴조사한 것은 이번이 처음이었다. 조사의 결과, 암거 (暗渠) 의 남쪽에도 취락이 존재한다는 것을 알 수 있었다. 주변에의 관련공사에 있는 조사에서는 취락이 또한 동쪽으로 넓어지는 것이 확인되었다.

본 연도의 조사에 의해, 위에서 말한 것과 같은 새로운 중요한 결과를 얻었다. 앞으로도 유적의 전체를 해명하기 위해 전력을 다하고자 한다.

付篇1　2004年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1．国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（H16. 4. 1～）

（設　置）

第1条　国立大学法人熊本大学（以下「本学」という。）に、国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任　務）

第2条　委員会は、本学の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議する。

（組　織）

第3条　委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1)　各学部、大学院自然科学研究科及び医学部附属病院から選出された教授又は助教授　各1人

(2)　施設部長

(3)　埋蔵文化財調査室長

(4)　その他委員会が必要と認めた者　若干人

2　前項第1号及び第4号の委員は、学長が委嘱する。

3　第1項第1号及び第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

4　第1項第1号及び第4号の委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第4条　委員会に委員長を置き、委員の互選によって定める。

2　委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

3　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

（議　事）

第5条　委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2　委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（意見の聴取）

第6条　委員長は、必要があるときは、委員以外の者を出席させ意見を聴くことができる。

（調査室）

第7条　委員会に、埋蔵文化財の発掘調査に関する業務を行うため、埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

2　調査室の業務、組織その他必要な事項については、別に定める。

（事　務）

第8条　委員会の事務は、施設部施設企画課において処理する。

（雑　則）

第9条　この規定に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附　則

1　この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2　この規則施行後、最初に委嘱される第3条第1項第1号の委員は、同号の規定にかかわらず、この規則施行の際現に熊本大学埋蔵文化財調査委員会委員である者をもって充てるものとし、その任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

2．熊本大学埋蔵文化財調査室要項

（趣　旨）

第１条　この要項は、熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則第８条第２項の規定に基づき、熊本大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の業務、組織その他必要な事項について定める。

（業　務）

第２条　調査室は、熊本大学（熊本大学医療技術短期大学部を含む。以下「本学」という。）の施設整備に関する次の業務を行う。

(1)　実施計画の立案及び実施に関すること。

(2)　出土した埋蔵文化財の整理、保管及び保存に関すること。

(3)　文化庁等に提出する報告書の作成に関すること。

(4)　その他必要な事項

（組　織）

第３条　調査室に室長を置く。

２　室長は、調査室に関する業務を掌理する。

３　調査室に調査員その他必要な職員を置くことができる。

４　調査員は発掘調査に関する業務を行う。

（室長等の任命）

第４条　室長及び調査員は、本学の教官のうちから学長が任命する。

２　学長は、必要がある場合は、学外の者を調査員に委嘱することができる。

（事　務）

第５条　調査室の事務は、関係学部等の協力を得て、施設部企画課において処理する。

（雑　則）

第６条　この要項に定めるもののほか、調査室の運営に必要な事項は、熊本大学埋蔵文化財調査委員会が定める。

附　則

この要項は、平成12年４月１日から実施する。

（国立大学法人化に伴う変更）

	（変更前）	（変更後）
第１条	熊本大学埋蔵文化財調査委員会	国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会
	熊本大学埋蔵文化財調査室	国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査室
第２条	熊本大学	国立大学法人熊本大学
	熊本大学医療技術短期大学部を含む。	熊本大学医療技術短期大学部は含めない。
第５条	施設部企画課	施設部施設企画課
第６条	熊本大学埋蔵文化財調査委員会	国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会

変更後の要項は、平成16年４月１日から実施する。

3．2004年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1　埋蔵文化財調査室組織（2004年４月１日現在）

＜室　長＞	（併・文学部教授）	甲元　眞之
＜調査員＞	（併・文学部助教授）	小畑　弘己
	（併・文学部助手）	大坪　志子
		檀　　佳克（2005．1．17～2007．3．30）

＜事務補佐員＞	前田　知聖
＜室内作業員＞（2004年11月～2005年３月）	古賀　敬子
	首藤　優子
	溜渕　俊子
	早田咲百合
	山嵜　早苗

2　埋蔵文化財調査委員会

委員長	北野　隆	（熊本大学工学部教授）	任期（2003. 4. 1～2005. 3. 31）
委　員	杉井　健	（文学部助教授）	（2003. 4. 1～2005. 3. 31）
	春田　直紀	（教育学部助教授）	（2003. 4. 1～2005. 3. 31）
	中村　直美	（法学部教授）	（2004. 4. 1～2005. 3. 31）
	木村　弘信	（理学部教授）	（2004. 4. 1～2005. 3. 31）
	小川　尚	（医学部教授）	（2003. 4. 1～2005. 3. 31）
	今村　順茂	（薬学部助教授）	（2003. 4. 1～2005. 3. 31）
	土亀　直俊	（附属病院助教授）	（2003. 4. 1～2004. 6. 30）
	森下　昭治	（同上）	（2004. 11. 1～2005. 3. 31）
	伊藤　重剛	（自然科学研究科助教授）	（2003. 4. 1～2004. 10. 1）
	伊東　龍一	（同上）	（2004. 10. 1～2005. 3. 31）
	小島　敏行	（施設部長）	（2004. 4. 1～2004. 12. 31）
	森川　能任	（同上）	（2005. 1. 1～）
	甲元　眞之	（埋蔵文化財調査室長）	（1994. 5. 16～）

審議事項

2004年４月21日	第18回埋蔵文化財調査委員会議事要録確認
	委員名簿確認
	委員会規則について
	国立大学法人化に伴う埋蔵文化財発掘届出の変更について
	平成15年度埋蔵文化財発掘調査結果について
	平成16年度埋蔵文化財発掘調査予定について
	今後の埋蔵文化財発掘の届出について
	その他
2004年10月７日	第19回埋蔵文化財調査委員会議事要録確認
	委員の交代について
	平成16年度埋蔵文化財発掘調査について
	平成17年度予定事業による発掘調査予定について
	その他

付篇２　埋蔵文化財調査室2004年度調査・研究活動記録

【室長】

甲元眞之

・平成16年度　文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（A）（１）海外学術調査「極東地域における前期完新世の環境変化と生業システムの適応に関する研究」研究代表者

・平成16年度　文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（A）（１）海外学術調査　「中国・中原地域出土古人骨の人類学的研究」分担研究者

・平成16年度　文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（A）（2）「中国・琉球列島間のタカラガイの需要・供給に関する実証的研究」分担研究者
・平成16年度　文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（A）「琉球列島における農耕社会成立過程の解明に向けた実証的研究」分担研究者

九州古代種子研究会第2回研究集会（2004年5月29・30日宮崎県西都市）開催

【調査員】

小畑弘己

・平成16年度　文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（B）（2）「雑穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究代表者
・平成16年度　文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（A）（1）海外学術調査「極東地域における前期完新世の環境変化と生業システムの適応に関する研究」分担研究者
・平成16年度　文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（A）「琉球列島における農耕社会成立過程の解明に向けた実証的研究」分担研究者
・平成16年度　文部科学省特定領域研究　「中世考古学の総合的研究－学融合を目指した新領域創生－」研究区分C01-2「北東アジア中世遺跡の考古学的研究」分担研究者

石器原産地研究会第4回研究集会（2004年4月3・4日佐賀県多久市）開催
九州古代種子研究会第2回研究集会（2004年5月29・30日宮崎県西都市）開催
石器原産地研究会第5回研究集会（2004年11月20・21日熊本県泉村）

大坪志子

・鹿児島県大島郡笠利町マツノト遺跡発掘調査参加（平成16年度　文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（A）「琉球列島における農耕社会成立過程の解明に向けた実証的研究」研究代表者　木下尚子）
・九州縄文文化研究会沖縄大会　発表

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽう　11
書名	熊本大学埋蔵文化財調査室年報　11
副書名	
巻次	
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査室年報
シリーズ号	11
編著者名	甲元眞之・小畑弘己・大坪志子・檀　佳克・前田知聖
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒860-8555　熊本県熊本市黒髪２-39-１　　TEL. 096-342-3832　　FAX. 096-342-3832
発行年月日	2005年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ほんじょう 本庄遺跡 （０４０２地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43　201	285	32° 47′ 39″	130° 42′ 47″	20040413 ～ 20040531	1241.75㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （０４１１地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43　201	285	32° 47′ 43″	130° 42′ 40″	20041101 ～ 20041228	551㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
くろかみまち 黒髪町遺跡 （０４２５地点）	くまもと 熊本県 熊本市 くろかみ 黒髪	43　201	278	32° 48′ 54″	130° 43′ 40″	20050221～ 調査中	1170.4㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （０４２６地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43　201	285	32° 47′ ゆら 50″	130° 42′ ゆら 45″	20050204, 20050208 ～ 20050209	84㎡	学校敷地内の開発事業に伴う

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本庄遺跡 （０４０２地点）	集落址	縄文後期 古墳・古代	溝・住居址	古代土器・縄文土器 縄文石斧 古代青銅製耳輪	
本庄遺跡 （０４１１地点）	集落址	古墳・古代 近世～近代	竪穴住居址 掘立柱建物址 溝・畑	縄文土器 古墳土師器・須恵器 古代土師器・須恵器 鉄鏃・石器・勾玉	
黒髪町遺跡 （０４２５地点）					調査中
本庄遺跡 （０４２６地点）	集落址	中～近世	溝	土師器・須恵器 馬骨・銅銭	

熊本大学埋蔵文化財調査室年報11
—2004年度—

平成17年3月25日　印刷
平成17年3月31日　発行

編集兼発行者　熊本大学埋蔵文化財調査室
熊本市黒髪2－39－1
電話（096）342－3832
印刷所　シモダ印刷株式会社

Published by
Archaeological Operation Center
Kumamoto University
Kumamoto, 2005